

公益社団法人日本看護科学学会 2021年6月社員総会 議事録

日 時：2021年6月13日（日）11:00～13:00

場 所：日本看護科学学会事務所（Web会議システムによる開催）

総社員数：312名

出席社員数：260名（Web会議システムによる出席124名、委任状136名）

Web開催出席社員：赤澤千春、吾郷美奈恵、浅野みどり、足立はるゑ、吾妻知美、荒木田美香子、有森直子、安藤詳子、飯田苗恵、飯野英親、飯村直子、五十嵐歩、池松裕子、石井豊恵、一戸とも子、上野まり、宇佐美しおり、内田宏美、瓜生浩子、江藤宏美、江本リナ、遠藤俊子、遠藤みどり、大石ふみ子、大川宣容、大久保暢子、大柴麻由美、大島弓子、岡田淳子、雄西智恵美、掛田崇寛、岡弥恵子、片山はるみ、加納尚美、川村三希子、菊地ひろみ、岸田佐智、工藤美子、久保田聡美、黒田裕子、洪愛子、河野あゆみ、小林淳子、小山真理子、近藤浩子、近藤麻理、齋藤基、定方美恵子、佐藤紀子、澤田いずみ、茂野香おる、島内節、白鳥さつき、白水真理子、杉浦太一、鈴木久美、鈴木幸子、瀬戸奈津子、征矢野あや子、高井ゆかり、多喜田恵子、武村雪絵、田中真琴、田村やよひ、筒井真優美、鄭佳紅、手島恵、照井レナ、長江弘子、奈良間美保、西垣昌和、二宮啓子、野口真弓、野間口千香穂、長谷川真澄、簗持知恵子、春山早苗、日高艶子、百田武司、平典子、平松知子、深田美香、藤田君支、藤本幸三、古谷佳由理、法橋尚宏、前川幸子、増島麻里子、松井優子、松浦賢長、松下年子、松田宣子、水野道代、三橋睦子、宮下美香、宮林郁子、宮本有紀、三吉友美子、森明子、森山美知子、八尋道子、山内豊明、横山京子、吉岡さおり、吉田千文、吉田澄恵、吉田俊子、若村智子（以上108名・50音順）

出席理事・監事：真田弘美（理事長）、須釜淳子（副理事長）

（うち16人社員）石橋みゆき、池田真理、岡谷恵子、亀井智子、鈴木みずえ、田中マキ子、仲上豪二郎、永田智子、樋之津淳子、深堀浩樹、堀内成子、宮下光令、安酸史子、南裕子（監事）、村嶋幸代（監事）（以上50音順。全員Web会議システムによる出席）

出席名誉会員：近藤潤子、新道 幸恵

議長：真田弘美（理事長）

議事録作成者：永田智子（総務担当理事）

山本なつ紀（慶應義塾大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）

I. 開 会

開会時、有効委任状136名を含め、総社員の議決権の過半数を有する社員が出席しているため、日本看護科学学会定款第23条および第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会2021年6月定例社員総会を開催する旨が伝えられた。司会は須釜淳子（副理事長）、書記は山本なつ紀（慶應義塾大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）で行われた。

II. 理事長挨拶

真田弘美理事長より、以下の挨拶があった。

新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックの中、ワクチンへの期待がある一方で、いまだ予断を許さない状況である。まずはフロントラインで尽力をしてくださっている看護師・保健師の皆様へ心より御礼申し上げる。本学会も前線で活躍する看護師・保健師を支え、将来に向けた新しい事業や看護学への投資を行っていききたい。社会情勢を受け、理事長を務めた2年間は主にオンラインでの

社員総会となった。直接ディスカッション出来ないことは非常に残念である反面、オンラインの場では、時間と場所の制約を超えて、多くの方々に参加していただける新しい形での社員総会を行えたと考えらる。

今期の理事会は、若手研究者の育成に向け短期集中で取り組んできた。本日はその中で、多くの新しい事業や取り組みについて、その成果などを報告していきたい。

III. 議長指名および議事録署名人の承認

定款 22 条 3 項に従い、真田理事長が議長に選出された。議事録署名人については、通常出席者から募るか議長が推薦するかのどちらかであるが、Web による社員総会では出席者の意向がわかりにくいために、議長から河野あゆみ（大阪市立大学大学院）、征矢野あや子（京都橘大学）の 2 名が推薦され承認された。

IV. 報告事項

1. 理事会および社員総会報告 <永田理事>

1) 理事会報告：議案書（p.4-7）に基づき報告があった。

2020 年度理事会は定例 6 回の理事会が行われた。定例の理事会（Web 開催）では、学術集会の準備状況、若手研究者養成助成・COVID-19 に関するアドホック委員会・会則等委員会に関する提案・審議・新規事業の報告、各委員会からの報告および審議事項、総務会からの提案による第 40 回学術集会での理事会企画関連や COVID-19 看護研究等対策委員会などの提案、世界看護科学学会（WANS）からの報告、2021 年選出理事候補者選挙、会員の入会審査における承認、前年度の決算および次年度予算の編成などを行った。

2) 社員総会報告：議案書（p.8-9）に基づき報告があった。

2020 年 6 月定例社員総会、2020 年 12 月社員総会が行われた。詳細は議案書を参照。

2. 総務報告 <永田理事>

議案書（p.10）に基づき報告があった。

会員推移については、2020 年 4 月 1 日時点での正会員数 9,129 名、入会者は 803 名であった。

2021 年 3 月 31 日現在会員総数は 9,945 名となり年々増加している。

3. 2020 年度事業報告

議案書（p.15-27）に基づき、各担当理事より報告があった。

(1) 第 40 回日本看護科学学会学術集会開催 <永田理事>

第 40 回日本看護科学学会学術集会（JANS40）を萱間真美学術集会会長のもと、2020 年 12 月 12 日（土）・12 月 13 日（日）の 2 日間を中心に 12 月 1 日～25 日までオンライン（Web）にて開催した。メインテーマは「看護科学の Implementation」で、参加者総数 4,518 名であった。

(2) 第 41 回・第 42 回日本看護科学学会学術集会準備 <永田理事>

第 41 回日本看護科学学会学術集会（JANS41）を百瀬由美子学術集会会長のもと、2021 年 12 月 4 日（土）・12 月 5 日（日）の 2 日間、名古屋国際会議場にて開催予定であったが、4 月 30 日に Web 開催へ変更となった。メインテーマは「共創による新たな看護科学の可能性」である。

第 42 回日本看護科学学会学術集会（JANS42）を森山美知子学術集会会長のもと、2022 年 12 月 3 日（土）・12 月 4 日（日）の 2 日間、広島国際会議場他にて開催予定である。

(3) 和文誌編集委員会 <宮下理事>

①日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

日本看護科学会誌第40巻を発刊した。2020年1月～12月の投稿論文数は193編であり（前年は151件）、最終的に200編を超える見込みである（採択率：28.5%）。

②和文誌の著者要件について検討

和文誌の著者要件について、代議員312名に対し、Web調査を実施した（実施期間2020年4月17日～4月30日）。アンケートの結果に基づき、「段階的に共著者の学会員要件の廃止を検討する。当面、筆頭著者は会員である必要があるが、共著者は非会員でもよく、採択後に掲載料を徴収する」ことについて、2020年度第1回理事会（5月22日）に提案し承認され、2020年11月から導入している。

③迅速査読の導入

迅速査読制度について検討し、①博士論文提出の際に副論文として提出予定の論文、または、②すでに学位論文として承認されており、学位取得後1年以内に公表する必要がある論文のいずれかの要件を満たす場合、迅速査読制度の適用となる。2020年11月1日から本件を含んだ新投稿規程の適用が実施されたことの報告があった。

そのほか、修士論文・博士論文を含んだ更なる投稿数の増加、査読に要する日数の短縮化などを目標とした投稿規程などの全般的な見直しに着手した。本件は本委員会でもとめ次期委員会に申し送る予定である。

(4) 英文誌編集委員会 <堀内理事>

①Japan Journal of Nursing Science の発行

学会誌は年4回オンラインジャーナルとして発行しており、2020年1月～12月の投稿論文数は692編（昨年度：496編）であり、論文投稿は年々増えている。2019年のimpact factorは、0.806であった（2020年6月発表による）。

②迅速査読の導入

2020年3月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した（博士号の学位申請、または、博士号取得後1年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象）。

（2020年20編・2021年4月30日現在14編）

③JJNS セミナーの開催

JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2020 をオンライン（Web）で開催した。オンラインセミナーの方が、資料を途中で止めて見たり、繰り返し見たりなど自分のペースで視聴できるため、評価が高いと考えられた。

第Ⅰ期（12月21日から1月31日配信）登録者数 228名

第Ⅱ期（2月1日から2月28日配信）登録者数 122名

④ 出版社との契約更新内容検討中

2022年以降の契約更新プロポーザルを受け取り、検討中である。

(5) 表彰論文選考委員会 <亀井理事>

①表彰論文の選考

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から、筆頭著者が会員である原著論文を対象として、「優秀賞」と「奨励賞」の選考を実施している。表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文17編（和文9編・英文8編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文8編（和文5編・英文3編）を審査リスト

として作成した。2020年8月21日に、全代議員、役員313名にメールにて採点を依頼した。10月9日までに返信された205件について評価点の集計を行った。回収率65.5% (205/313)。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞2編、奨励賞1編を決定し、理事会に報告し承認を得た。

【優秀賞】

●Quality-of-life predictors for men undergoing infertility treatment in Japan

Kyoko Asazawa, Mina Jitsuzaki, Akiko Mori, Tomohiko Ichikawa, Katsuko Shinozaki
Japan Journal of Nursing Science (2019) Volume16, Issue3, pages 329-341

●Comparison of wiping and rising techniques after oral care procedures in critically ill patients during endotracheal intubation and after extubation: A prospective cross-over trial.

Keita Muramatsu

Japan Journal of Nursing Science (2019) Volume16, Issue1, pages 80-87)

【奨励賞】

●生体肝移植後の高齢レシピエントの自己管理行動の現状と自己管理行動に影響する要因

堀部 光宏, 赤澤 千春

日本看護科学会誌 2019年 39巻 p147-156

② 他組織からの表彰候補者の推薦

山上の光賞、日本学術振興会（育志賞含む）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、推薦を行った。

山上の光賞について：日本看護協会が看護関連団体からの推薦を取りまとめて推薦した本会名誉会員でもある川村佐和子先生が、第6回山上の光賞を受賞された。本会も日本看護協会に賛同し推薦団体の1つとして推薦書を作成し提出した。

ヘルシー・ソサエティ賞について：本会からも推薦した真田弘美理事長が、第16回ヘルシー・ソサエティ賞（パイオニア部門）を受賞された。

③ 学術集会演題表彰制度の検討

第41回学術集会から適用する演題表彰制度について、定款施行細則改定案と、規程案の作成を行い、授与する賞の種類、選考方法、選考フローなどの事項を検討した。賞は「優秀演題発表賞」「優秀ポスター発表賞」「若手優秀演題発表賞」「優秀抄録賞」とし、選考は2段階で行う方法とした。第1段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、査読者2名以上による採点を行い、上位10名を選考する。第2段階では、学術集会当日の発表について、表彰論文選考委員会で主に採点をして最終選考し、表彰する方法とした。演題登録システムに関して3社から企画提案と見積書を収集し、その中から1社を選定した。また、表彰状、副賞についての具体的な検討を行い、表彰式の開催タイミングは閉会式とすることとし、第41回学術集会から適用することが合意された。

(6) 研究・学術推進委員会 <深堀理事>

①委員会としての活動

「大型研究費の獲得を目指した支援」に関する活動を開始した。

日本学術振興会の「学術変革領域研究(A)」の令和3(2021)年度における申請において領域代表者となる意思のある人の募集を行った(募集期間：2020年3月13日から5月7日)。3件の応募があり1件を採択した。領域代表者と本委員会で協議を行い、「『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出」のテーマで、

「学術変革領域研究 (A)」の令和 3(2021)年度の公募に挑戦する方針とした。この研究計画による公募に「計画研究代表者」として参加を希望する人を募集した(募集期間:2020年9月16日から10月9日)。27件の応募があり12件を採択した。これらに加えて、4件を採択された計画研究と類似点があり、統合を打診する対象として選定した。領域代表者、研究・学術推進委員会委員、計画研究代表者での検討を経て2021年1月25日に、領域代表者が令和3(2021)年度学術変革領域研究(A)「人々が抱える生きにくさの解放的変容を可能にする意味立脚型医療学(領域略称名:生きにくさの変容)」の領域計画書を日本学術振興会に提出するに至った。この領域は12件の計画研究から構成され、計画研究代表者のうち45歳以下の研究者は5(42%)名で、この領域に研究代表者・分担研究者として関与する研究者の合計人数は78名であり、若手研究者を含んだ大規模な研究組織を構築できた。申請時点における5年間での研究経費の総額は1,420,930千円(計画研究分1,194,930千円、公募研究分226,000千円)であった。2021年5月に結果通知があり、2021年度は残念ながら採択されなかったが、今後も継続して活動していく予定で、「大型研究費の獲得を目指した支援」に関する活動に関する申し合わせ事項を作成し理事会の承認を得た。

② JANS セミナーの開催

第16回JANSセミナー「若手からシニアまで、看護学研究者全員で挑むイノベーション:大型研究マネジメントと研究費の継続的獲得のヒントを学ぼう」をWeb開催した(2020年7月6日~10月2日)。参加人数は、437名(会員限定)であった。

③ 第40回学術集会での交流集会の企画

第40回学術集会の交流集会において「看護学研究者がよりインパクトのある大規模な研究に挑戦していくために」を開催した(2020年12月12日9:00~9:20、Zoom・LIVE配信)。

委員会開催:8回(2020年4月21日、5月15日、6月17日、7月12日、9月6日、10月10日、12月7日、2021年2月10日)オンライン

(7) 看護ケア開発・標準化委員会 <須釜副理事長>

研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術(看護ケア)を開発・標準化することでNursing Scienceの構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組づくりを目指す。

①モデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き2014に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標とする

- ・2020年1月パネル会議メンバーを決定し、3月に推奨文草案に関するレビューを実施し、4月11日にパネル会議をZoomによるオンラインで開催した。ガイドライン作成メンバーで草案修正を11月末までに実施した。
- ・2021年1月11日統括委員会実施、その後、公開に向け最終調整を始め、2月1日~15日に外部評価、2月4日~15日にJANS会員からのパブリックコメントを募集した。
- ・出版社(南江堂)の理事会承認を得て完成、学会誌(英文誌、和文誌)への投稿準備をしている。

② 新たなケアガイドライン作成グループを設立し、活動を支援する

- ・2020年8月1日(土)13時~15時ZoomによるオンラインでSR講習会を新規ガイドライン作成グループメンバー向けに行った(講師:大田えりか先生)。

- 1) 「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」佐藤正美代表（東京慈恵会医科大学）
 - ・2021年2月26日17:30-20:00までグループ会議（オンラインZoom）があり、現状の進捗と今後の進め方の調整をした。
 - ・2021年3月5日看護ケア開発標準化委員会委員長とグループ代表、総括メンバーとで進捗確認を行った（オンラインZoom）。
 - ・4つのCQにそってレビューを実施し、結果を整理している。
- 2) 「高齢者排尿誘導ガイドライン」佐藤和佳子代表（山形大学）
 - ・2021年1月28日看護ケア開発標準化委員会委員長とグループ代表、メンバーとで進捗確認を行った（オンラインZoom）。
 - ・2021年3月22日看護ケア開発標準化委員会委員長とグループ代表、メンバーとで進捗確認を行った（オンラインZoom）。

③ 活動状況の公開

- ・日本看護系学会協議会ワークショップ2020年11月29日（オンライン）
「看護ケアのガイドライン作成・活用に向けて」
ワークショップへ話題提供者として登壇し、ガイドラインの作成取り組みについて発表した。
- ・第40回学術集会シンポジウム2020年12月13日（オンライン）
「看護行為の開発ならびに標準化のプロセス学会主導看護ケアガイドライン作成プロジェクトの紹介」の企画を行った。

(8) 若手研究者活動推進委員会 <仲上理事>

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多くの学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定期的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

①委員会としての活動

- ・JANS若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。
- ・JANS若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は2021年3月現在で計821名であり増加中である。当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動の投稿が行われた。
- ・日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信をした。
- ・第40回学術集会での英語シンポジウム「Next-generation knowledge development approach through team science」を企画し開催した。
(2020年12月13日10:00~10:50、Zoom・LIVE配信)。
- ・第40回学術集会での若手ネットワークサロンをJANS40ホームページ上に特設ページを設け実施した。

②JANS セミナーの開催

- ・第17回JANSセミナー「看護学研究の社会実装：インプリメンテーション研究とデータサイエンスの潮流」（オンデマンド配信）を開始した（2021年3月22日~7月末まで受講可能）。
受講者数は2021年3月31日現在で270名であった（会員253名・非会員16名・学部学生1名）。なお、5月31日時点で申込み548名（学部学生3名）であった。

③COVID-19 がJANS会員の教育・研究活動に与えた影響の調査

- ・ COVID-19 看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を3名選出し、調査を実施した。詳細はCOVID-19 看護研究等対策委員会の活動報告に記載。また、会員からの要望が多かった調査データのオープンソース化に向け、まずは共同研究者として参画する枠組みを検討した。

④エリア検討会開催支援

- ・ JANS若手の会エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。2020年度に開催されたエリア検討会は、中四国エリア検討会（2021年3月6日）、北関東エリア検討会（2021年3月13日）、関西エリア検討会（2021年3月6日）であった。それぞれの開催報告をJANS若手の会ホームページ上に掲載した。その他、COVID-19看護研究等対策委員会、看護ケア開発・標準化委員会の会議への参画、第17回JANSセミナー開催打ち合わせをメール、Web会議システムを用いて担当者レベルで随時実施した。

(9) 国際活動推進委員会*世界看護科学学会を含む<池田理事>

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画する。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指す。

①委員会としての活動

- ・ 国際活動推進委員会を4回（2020年6月9日、10月16日、11月27日、2021年4月1日）オンラインで開催した。

②委員会企画シンポジウム

- ・ 第40回学術集会の英語セッションでの発表を促進するための委員会企画セミナー「国際学会オーラルプレゼンテーションへの第一歩」を2020年4月19日に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策のために中止した。申込数が多かったことから必要性を鑑み、第40回学術集会において委員会企画としてシンポジウムに開催形式を変更し2020年12月13日9:00~9:50、Zoom・LIVE配信で実施した。参加者は150名を超え、参加後のアンケートでは、口演発表に一步踏み出せそうかという問いに対して、「思った」「少し思った」が合計96.4%であった。
- ・ 第41回学術集会では、国外の研究活動経験者からの講演、交流、ネットワーキングを交流集会で企画することで登録予定である。

③世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science：WANS）

- ・ 世界看護科学学会（WANS）事務局業務を引き続き実施した（ホームページ維持管理含む）。
- ・ 第6回WANS学術集会は昨今の新型コロナウイルス感染予防対策のために、現地開催は中止となった。しかしWeb上で抄録が公開されていることから、学術集会は開催されたことが理事会で認められた。事務局として任期終了となった理事長の選出についての業務を行い、2020年6月にJANSから推薦した片田理事長が再選された。
- ・ WANS第6回学術集会会期中に行う予定であったWANS理事会については、議題を整理し、11月5日にZoom会議にて実施した。現在WANSメンバー組織は日本の学会が9団体、海外の団体が8団体である。WANSの将来構想を考えるAd-hoc委員会が設置され2021年1月に開催された。Ad-hoc委員会では、片田理事長をはじめ、日本の3団体3名（Japan Society of Disaster Nursing、Japanese Society of Child Health Nursing、Japan Academy of Nursing Science）と海外の2団体3名（Thailand Nursing and Midwifery Council、Asian American Pacific Islander Nurses Association）合計7名の代表によって今後の活動方針の

検討を行った。Ad-hoc 委員会の提案は2月15日のWANS理事会で報告された。2021年末に片田理事長の任期が終了するため、11月に選挙を実施する予定で準備を進めているところである。

- ・オンラインで多くのメンバーが顔を合わせる機会となった。

④異文化看護データベース

- ・異文化データベースの維持・更新の方法について検討した。現在、国際活動推進委員を通してのデータ収集のみであるため対象国が限定されている。公募について検討したが、情報の全体性、厳密性においてリスクが大きいと判断した。引き続き国際活動推進委員が中心となってデータ更新を進めることとした。シンガポールとパキスタンについて、データを更新中である。

(10) 看護学学術用語検討委員会 <安酸理事>

看護が扱う専門用語の概念的統一を図り、看護用語に関する現状と展望や維持管理のシステム構築についての検討を実施。

看護用語の新たな定義を検討するため以下の委員会活動を行った。

検討すべき用語として「セルフケア」を選定し、セルフケア定義案について検討。委員会としては「ケア」「セルフケア」「セルフケア支援」と概念を分け、看護との絡みで明確な定義づけを行う方向で検討した。

クリティークのために臨床の看護職者を対象に Zoom でのフォーカスグループインタビューを計画し、関西医科大学研究倫理委員会での審査・承認の上、臨床の看護職者 13 名を対象に実施した。今後、フォーカスグループインタビュー結果をもとに、「セルフケア」の新しい定義案を作成し、今年度の学術集会の交流集会で公表、論文化を予定している。「セルフケア」概念の定義の再検討を行った一連の取り組みをもとに学術用語の継続的な維持管理システムの構築方法についてまとめる予定である。

(11) 社会貢献委員会 <鈴木理事>

一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民フォーラム」や次世代の看護学研究者育成となる「ナーシング・サイエンス・カフェ」を実施。

① JANS40 において市民公開講座を開催

JANS40 において、市民公開講座「私の仕事（作家 浅田次郎氏）」をオンデマンド配信で開催した（2020年12月1日～25日）。申込者数：1,367名、動画再生回数：933回であった。アンケート(317名)からは講師に興味があり参加8割、役に立った9割と良好な評価であった。

②JANS41 での市民公開講座の準備

JANS41 での市民公開講座の準備を進めている。

- ・日時：12月5日(日)学会2日目（14：30～16：30まで市民公開講座として予約）
- ・開催形態：名古屋国際会議場において実施予定だったが、Web開催へ変更となった。
- ・演者：愛知県立大学 看護学部 教授：清水宣明氏
- ・講演内容：after コロナ、with コロナ、ニューノーマルなど、今後の COVID-19 の感染状況、対策、科学的根拠に基づく感染予防対策の市民生活について、若しくは南海トラフへの備え(今後の状況で決定する)。

③JANS42 の「市民公開講座」等について

講師の選定やナーシングサイエンスカフェ（NSC）の開催について、併せて検討する。

(12) 広報委員会 <田中理事>

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布）、当日の記録の保存、学会ホームページの定期的な更新や維持管理等を実施

①ホームページの更新

本会公式ウェブサイトであるホームページの内容の更新と整理を事務所と協力のうえ定期的に行った。

②第40回学術集会において交流集会を開催

交流集会「あなたの研究に「看護研究の玉手箱」を使っていますか？」を開催した（2020年12月12日、9:00~9:20、Zoom・LIVE配信）。

③学術集会等の広報活動

第40回学術集会の様子をスクリーンショットにおさめ、記録として本会ホームページに掲載した。

④委員会成果物の公表

JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2020年度表彰論文の追加掲載を行った。

⑤英語版ホームページのリニューアル

英語版ホームページのリニューアル作業を進めている、リニューアルされたホームページの紹介が行われた。

上部のスクリーンで強調したい内容に関するメッセージが表示できる、学会活動についての重要な6つのパネル（学会誌、学術集会、ガイドラインなど）をページ中央に配置、英文誌については誰でも読めるようになっている。

(13) 看護倫理検討委員会 <樋之津理事>

看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施している。

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。
- ・9月11日に報告された「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」の自由記述欄に看護学研究が関連する倫理的社会的社会事象に関連していると思われる記述の有無についてICNの倫理ガイドラインに基づいて確認した。COVID-19による様々な制限・制約、混乱・混迷のなかで教育・研究活動に取り組んでいる様子がうかがわれ、倫理的課題というより、責務遂行が困難な現状において問題を生じさせないようにしている倫理的葛藤の状態にあることが推測された。

(14) 利益相反委員会 <鈴木理事>

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大なCOI状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

- ・和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・第40回学術集会会長、各講演者および学術集会演題登録時の利益相反申告を実施した。
- ・セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。
- ・学術活動の利益相反に関する本学会の細則等の見直しを行うことを計画した。
- ・JANAの利益相反(COI)検討委員として、鈴木、曾田がCOI検討委員として下記のワークショップに出席し、JANAのCOIガイドラインを検討した。

ワークショップ①：2020年9月26日（土）

10：00～講演会（1時間程度、その後質疑応答）

演者：東京医科歯科大学産学連携研究センター長 飯田香緒里先生

ワークショップ②：2020年10月31日（土）

- ・利益相反委員会において、同ガイドラインを12月23日にメール審議した。
- ・日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針・細則との整合性を検討した。

(15) 研究倫理審査委員会 <岡谷理事>

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

研究倫理審査の実施

2件の申請があり、Zoom上で通常審査を行った。（2021年3月）

(16) 災害看護支援委員会 <永田理事>

看護系学会と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。

- ・災害発生時には、緊急に拡大災害支援対策委員会を組織し、災害に対応していくこととしている。今期は該当なし。
- ・日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討することとしている。今期は該当なし。
- ・第40回日本看護科学学会学術集会にて、交流集会「COVID-19の経験を次の健康危機に活かす：看護のエビデンス構築に向けて」を開催した（12月12日11:00～11:20 Zoom・LIVE配信）。

(17) 若手研究者助成選考準備委員会 <鈴木理事>

海外から自分の研究を見直し、発信していく若手研究者を育成することを目指して、2021年4月からの若手研究者助成のための以下の活動を行った。

- ・2021年度からの実施を計画し、準備委員会を立ち上げた。
- ・新たな事業となるため、規程類の作成を行い、「若手研究者助成規程」「若手研究者助成選考細則」「若手研究者助成選考申し合わせ」「若手研究者助成資金細則」の設置を進めた。
- ・事業の実施には内閣府の公益認定等委員会に「変更認定」を申請し承認を得る必要があり、11月6日の第4回理事会でこの「変更認定」の承認を得て申請書の作成を進めた。通常、認定までには約3ヵ月程度かかることが予想されており、2020年12月23日に電子申請を行い、2021年3月31日に本件に関する認定書が届いた。なお、審査期間には8回に渡って質問が届き、理事長確認のうえ委員長と副委員長が一つひとつ真摯に回答するなど対応したこともあり、結果として予定通り認定された。

その後選考委員会を立ち上げ、4月12日～5月31日までホームページで研究助成の申請を募った結果、3名の応募があった。なお、COVID-19の影響により、海外での学術集会

への出席に関する応募はなく、3件とも海外留学への1年間の助成（106万円）の応募であった。選考委員会で3名全員にヒアリングを行った結果、以下の2名が採択された。

- ・長野県看護大学 助教 田中真木氏
- ・自治医科大学 講師 八木街子氏

(18) 会則等委員会 <石橋理事> 2020年6月新設

本委員会は、定款や各種規程等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行うため2020年6月に設置された委員会である。

- ① 新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検及び改正内容の検討
 - ・若手研究者の育成及び支援に関する新規事業を定款へ反映した。
 - 【第3条④に「若手研究者の育成及び支援」追加、第2項に事業実施の場として「国内に限らず海外」を追加、(2021年3月31日に定款へ反映)】
 - ・正会員に関する記載について、下位の会則変更の内容が定款に及ぼす影響を検討し、改正の必要性を検討した。
- ② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討

(19) COVID-19 看護研究等対策委員会 <須釜副理事長> 2020年6月新設

本委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活が一変した社会において公益社団法人日本看護科学学会の定款第2条に定める「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献する」に基づき、このCOVID-19の状況下で何ができるのかを実践するために時限的（2～3年）な活動をすることで理事会承認により設置された。

- ・日本看護科学学会の会員を対象に緊急事態宣言期間中の活動に関するアンケート調査をオンラインで行った（7月1日～8月1日）。
- ・上記調査結果を学会ホームページに速報として公開した（9月11日）。
- ・社員総会（12月11日）ならびに第40回学会総会（12月12日）にて報告した。いずれもWeb開催とした。
- ・会員調査結果を報告書（日本語版、英語版）としてまとめ、学会HP上で公開した（2021年3月）。
- ・調査報告結果を解析し、海外専門学術誌に投稿した。
- ・本調査で得られたデータを会員が有効活用できる方法（データのオープンソース化）を検討し、分析から論文執筆までを行う研究者又はグループを公募し（11月13～30日）、理事会の承認を得て、指定課題2件、自由課題型4件を採択した。

(20) 総務委員会 <永田理事>

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した（会員数等については、総務報告を参照）。

- ①入会審査、会員管理の実施
 - ・入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。
- ②学会事務所の運営
 - ・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。
 - ・事務所職員と緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員面

談を実施し、業務遂行状況を把握した。特に COVID-19 対策について、在宅勤務の併用、事務所内での感染対策等が円滑に実施できるよう支援した。

- ・理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。

(21) 他機関との連携活動

①日本看護系学会協議会 (JANA) <石橋理事>

- ・2020 年度社員総会は、COVID-19 の感染拡大を防ぐため開催形式を変更して開催された。
- ・2020 年 6 月 7 日 (日) に、書面総会資料を踏まえての各社員学会との意見交換会に出席した (Web 開催)。
- ・2020 年度社員総会に書面議決書で出席した (2020 年 6 月 21 日 (日) 開催)。
議案：2019 年度決算報告、2019 年度会計監査報告、2020 年度役員選挙 (選挙管理委員)
- ・2021-2022 年度役員選挙 (推薦、投票) に参加した。
- ・医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、13 名の会員を個別調査部会員に推薦した。この協力については 2016 年度から行っており、計 35 名の会員を推薦してきた。併せて毎年開催の協力学会説明会にも参加した。(2021 年 3 月 17 日 Web にて)
- ・その他、JANA から提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

②看護系学会等社会保険連合 (看保連) <永田理事>

- ・看保連 2021 年度研究助成への応募について、申請があった 4 件を審査し、1 件を承認した。

③日本学術会議 <石橋理事>

- ・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。
- ・日本看護科学学会として会員候補者 6 名の情報提供を行った。

④その他の機関 <石橋理事>

- ・対応すべき事案はなかった。

(22) 選挙管理委員会 <青木委員長 代) 永田理事>

- ・2020 年 9 月 28 日第 1 回選挙管理委員会を開催した。
理事候補者選挙準備 (選挙日程決定、公示文書作成、選挙人・被選挙人確認、Web 選挙システム投票要領作成) 電子投票受付期間：2021 年 2 月 1 日 (月) 正午～28 日 (日) 23 : 59
- ・2021 年 3 月 1 日第 2 回選挙管理委員会を開催した。
理事候補者選挙開票
開票：2021 年 3 月 1 日 (月) 午後 3 時より
開票後、当選した理事候補者に当選通知を発送した。

質疑応答

- ・投票率と可能であれば理事候補の辞退割合の開示について (筒井真優美先生)
 - 投票率：78.2% (有田学会事務所長)
 - 辞退者などの選考プロセスは理事長を含め理事会は知らされないルールであるため開示困難 (真田議長)

V. 審議事項

第1号議案 理事選任案について（議案書 p. 29）

現理事任期満了（2021年6月13日）に伴う新理事（15名、任期：2年間）の選任について、定款23条第4項に基づき、Zoom上にて候補者ごとの投票が行われた。

委任状・議決権行使の結果、全ての新理事が出席社員の議決権の過半数を超えて承認されたため、定款第27条第1項により、下記の通り新理事15名が決定し、議長はひとり一人について名前を読み上げ確認を行った。

	氏 名	所 属
1	池 田 真 理	東 京 女 子 医 科 大 学
2	石 橋 み ゆ き	千 葉 大 学 大 学 院
3	井 上 智 子	国 立 看 護 大 学 校
4	江 藤 宏 美	長 崎 大 学
5	大 久 保 暢 子	聖 路 加 国 際 大 学
6	亀 井 智 子	聖 路 加 国 際 大 学
7	近 藤 暁 子	東 京 医 科 歯 科 大 学
8	須 釜 淳 子	藤 田 医 科 大 学
9	手 島 恵	千 葉 大 学 大 学 院
10	仲 上 豪 二 朗	東 京 大 学 大 学 院
11	中 村 幸 代	横 浜 市 立 大 学
12	深 堀 浩 樹	慶 応 義 塾 大 学
13	法 橋 尚 宏	神 戸 大 学
14	堀 内 成 子	聖 路 加 国 際 大 学
15	宮 下 光 令	東 北 大 学

第2号議案 2020年度決算の承認および会計監査の報告について

石橋会計担当理事から2020年度決算について議案書(p. 30-43)に基づき説明があった。

資料30ページの貸借対照表から説明、主な点として、資産の部では、前年と比べ流動資産として5,897,497円増収、固定資産の若手研究者助成資金として30,000,000円計上しており、資産合計として、37,511,397円の増となった。負債の部では、負債合計が33,519,904円で、前年度より2,279,764円増となった。正味財産の部の負債及び正味財産合計224,940,316円から負債合計33,519,904円を差し引いた、2020年度決算時の本学会の正味財産合計は191,420,412円であり、前年度に比べ、35,231,633円増えた。

正味財産増減計算書(p. 32-33)では、I-1-(1)経常収益内、経常収益計が前年度より6,917,806円減額となり、I-1-(2)経常費用内、会場費については、第40回学術集会在Webに変更となり会場が不要となったため、対前年度で32,427,850円の差が生じた。I-1-(2)経常費用内、当期経常増減額は前年比19,217,361円増の35,397,633円となった。

正味財産増減計算書内訳表(p. 34-35)では、I-1-(1)経常収益内、正会員受取会費について、99,300,000円を公益目的事業会計と法人会計に50対50の49,650,000円を振り分けている。I-1-(2)事業費計の公益目的事業会計小計98,919,823円であり、対して収入としてはI-1-(1)の経常収益計の公益目的事業会計小計は101,925,027円と収入金額の方が3,005,204円多く、この段階で公益法人会計基準に定める収支相償(支出 \geq 収入)がクリアされていない。しかし、貸借対照表で説明したが、若手研究者助成資金に30,000,000円を繰り入れたことでクリアになり、通常決算と同様、収益事業会計のプラス分を一定の率で公益目的事業会計に振り替えることが可能となり、最下段の正味財産期末残高の合計は貸借対照表と同額の191,420,412円という結果になった。

なお、JANSの遊休財産制限は公益目的事業会計小計98,919,823円であり、若手研究者助成資金に繰り入れた30,000,000円の繰り入れがなかった場合は制限を超過するレベルであり、タイミング的にもベストであった。

財務諸表に対する注記(p. 36-37)では、「2. 特定資産の増減額及びその残高」について、若手研究者助成資金の30,000,000円が計上されているので確認いただきたい。

2020年度収支計算書(p. 40-42)について、それぞれ特徴的な内容などは※印がついており42-43ページに説明があるので適宜参照いただきたい。

事業活動収支の部について、事業活動収入の会費収入は97,180,000円(納入率95.9%)、学会誌収入は3,898,027円、寄附金・助成金収入は1,067,000円、セミナー収入が2,980,000円、学術集会収入は予算を大きく上回り50,535,000円、その他含め、事業活動収入合計は、155,660,106円となった。

事業活動支出の事業費支出は73,034,355円、学会誌発行費支出が28,582,434円、看護学術振興費支出(各委員会支出)1,350,758円、研究学術活動支援費支出(論文表彰費支出、セミナー支出等)2,471,899円、社会的活動費支出1,013,700円、次年度開催学術集会(準備期間)2,284,733円を含めた学術集会費支出39,606,403円、管理費支出45,525,992円、全体として会議等がオンラインへ開催形態変更したことにより支出が大きく軽減している。事業活動支出合計は120,836,347円、事業活動収支差額は34,823,759円となった。p. 42にある若手研究者助成資金取得支出(※30も併せて確認)30,000,000円については、今年度限りの支出で、当期支出差額は2,135,657円となり、次期繰越収支差額は154,461,266円となった。

事業活動収入額・事業活動支出額と収支差額のグラフ(いずれもp. 43)について、収入の多くを会費収入と学術集会収入が占めており、支出では、学術集会当年度開催に関連する支出、学会誌発行費支出が多くを占めている。収支差額については、COVID-19の影響により増えている。

説明後、議長の真田理事長からも、大きく収支差額が生じた理由の一つとして、COVID-19 への対応に伴う各委員会や理事会などの会議で生じる会場費や旅費交通費が Web 会議に取り替わったことが一因である旨の発言があった

決算説明後、村嶋監事から議案書 (p.45-47) に基づき、会計監査の報告があった。

はじめに、監査報告書を作成するにあたり、事前に外部監査の牧公認会計士から会計処理に関する帳票書類と帳簿の照合などに問題がないとの報告書が提出されており、これを基に監事 2 名で監査を行った結果である旨の説明があった。

2021 年 5 月 15 日に Web で監査を行った。監査の方法およびその内容は、記載のとおりであり、監事 2 名は 2020 年度の理事会に出席し、情報収集に努め、監査当日は会計帳簿類および決裁書類等を見て監査を実施した。監査の結果、事業報告や決裁書類等は、法令および定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認められ、決算に関する財務諸表についても、法人の財産および損益の状況など、全ての重要な点において適正に表示しているものと確認した旨の報告があった。

また、p. 43 の事業活動支出額と収支差額グラフ内収支差額の 34,823,759 円について、ここから若手研究者助成資金 30,000,000 円が拠出されたため、遊休財産限度額には到達しなかったが、2021 年度も COVID-19 の影響により事業費の増加は難しく、遊休財産上限額を超える可能性があり、対応策を早急に検討する必要があると考える。検討の方向性として、若手研究者助成資金（特定費用準備資金）の増額（規程の改定が必要）や、2022 年度学術集会やセミナー参加費の減額等による会員への還元、長期展望として本学会の会館等の移転・建設など学会の拠点となる場の確保のための長期貯蓄計画などが提案された。

その他、質問や意見を促したが特になく、本件について Zoom 上にて可否を求めたところ、承認過半数以上で承認された。

第 3 号議案 2021 年度事業計画変更 (案) と補正予算 (案) の承認について (p. 49-52)

はじめに永田理事より、議案書の訂正が行われた「誤) 2020 年度事業計画変更 (案)」→「正) 2021 年度事業計画変更 (案)」。その後、永田理事より事業計画変更 (案) について、石橋理事より補正予算 (案) についてそれぞれ説明が行われた。

1. 学会誌の投稿増に関する変更

投稿数が増える傾向にある和文誌と英文誌の対応をするため、予算をそれぞれ 100 万円増額する。

2. 看護ケア開発・標準化委員会

2021 年度に 2 つのガイドラインを刊行する予定があり、予算を 400 万円増額し、2020 年度中に刊行予定であったガイドラインが 2021 年度になったため 280 万円、計 680 万円を増額して対応する。

3. 受賞論文表彰費支出

第 41 回日本看護科学学会学術集会で演題の表彰を実施するため、予算を 50 万円増額して対応する。

4. 社員総会費 (管理費)

6 月の定例社員総会の Web 開催により、会場費および旅費交通費の使用がなくなるため予算を 250 万円減額する

5. 理事会費 (管理費)

開催方法の主流がオンラインとなり、特に遠方からの出席理事が激減、もしくはすべてオンラインとなることが見込まれるため、予算を 150 万円減額する。

6. 委託費支出 (管理費)

①2020 年度にリニューアルしての公開を予定していた英語版ホームページの制作が 2021 年度に

延びたため、制作分の 220 万円を 2021 年度に増額して対応する。

- ②英語版ホームページのリニューアル公開により、内容やコンテンツ等の充実と維持を図ることを目的に、原稿翻訳やシステム構築等に対応するため、200 万円を増額する。

2021 年度収支補正予算書（案）

石橋理事より 2021 年度収支補正予算書（案）（p. 50-52）について、補正予算のついた項目には※印がついており 52 ページに説明がある旨の説明があった。

2-①事業費支出内、学会誌発行費支出（※1）について、2,000,000 円の増額、看護ケア開発・標準化委員会（※2）へ 6,800,000 円の増額、受賞論文表彰費支出（※3）500,000 円の増額、2-②管理費支出内、社員総会費（※4）2,500,000 円減額、理事会費（※5）1,500,000 円減額、委託費支出（※6）4,200,000 円増額となっている。これらを合わせて、事業活動収支合計（1b）9,500,000 円の増額となった。当期収支差額として 9,500,000 円が反映されており、次期繰越収支差額は 9,481,000 円となった。

その他、質問や意見を促したが特になく、本件について Zoom 上にて可否を求めたところ、承認過半数以上とのことで承認された。

第 4 号議案 名誉会員の承認について

議長は議案書（p. 53-54）に基づき、学術集会会長や代議員を務められた中村恵子氏を名誉会員に推薦したい旨提案し、Zoom 上にて可否を求めたところ、承認過半数以上とのことで承認された。

VI. 理事会（2019-2020）からの報告

議長の真田理事長により、「若手研究者活性化に向けての取り組み2019-2020年度報告書」に沿って報告が行われた。

1. 日本看護科学学会の理念・ミッション

看護学の発展をもって国民の健康と福祉に貢献するという理念の基に、看護科学（Nursing Science）に資する論文の公表と学術集会の開催し、若手研究者の育成を行う。

2. 若手研究者活性化に向けた本理事会のこれまでの取り組みとその評価

- ・当学会では、2011年より若手研究者の育成に向けての取り組みを行っている。
- ・今期は若手研究者の育成に向けて、具体的な活動内容を明確にすべく、若手研究者活性化ワーキンググループを立ち上げ、提案書を理事会に提出した。
- ・本事業を推進するにあたり、定款第3条の事業目的に「（4）若手研究者の育成及び支援」が追加され、当学会として若手研究者への事業が明文化された。

3. 若手研究者の定義

- ・将来の看護学に貢献できる人材、少なくとも10年以上先、20年後に最も高いアクティビティが期待できる人材とし、暫定的に年齢で定義することとした。
- ・本ワーキンググループ立ち上げ当時の2019年11月に当学会の正会員の年齢分布を参照したところ、39歳未満は17.8%、45歳未満は32.4%であった。
- ・当学会の収入のほとんどが会費であることも鑑みて、若手研究者の定義として45歳未満が妥当であると結論付けた。

4. 若手研究者育成事業の3つの重点課題

- ・論文公表の場の整備
 - 和文誌（日本看護科学会誌）
 - 英文誌（Japan Journal of Nursing Science: JJNS）
 - 学会発表に関する論文公表方法

- ・研究能力の向上
 - 研究支援体制：若手研究者を巻き込んだ大型研究費の獲得
 - 研究支援体制：システマティックレビュー作成
 - 若手研究者を支援する立場にある指導者への実態調査

- ・国際化
 - 国際学会発表助成
 - 海外研究助成

5. 若手研究者育成事業の各KPI (Key Performance Indicator) とその達成状況

・論文公表の場の整備

- 和文誌（日本看護科学会誌）＜宮下理事＞
 - ①投稿数増加（2年間で20%増）：ほぼ達成【17%増】
 - ②採択数も可能なら2年間で20%の増加：達成【33%増】
 - ③初回査読結果通知まで30日以内、可能なら採択まで3か月以内：
 - 未（ただし近いうちに達成の見込みあり）【通常査読の採択論文：36.5日、不採択論文：38日】
- 英文誌（Japan Journal of Nursing Science: JJNS）＜堀内理事＞
 - ①日本人の投稿申請130本：ほぼ達成【108本、投稿数は右肩上がりのため達成見込み】
 - ②投稿から初回査読結果の返信までを平均60日に短縮：達成【平均36日】
- 学会発表に関する論文公表方法 ＜亀井理事＞
 - ・表彰された演題の投稿数：5論文／年：若手向けの賞を含め、表彰システムの構築を実施

・研究能力の向上

- 研究支援体制：若手研究者を巻き込んだ大型研究費の獲得 ＜深堀理事＞
 - ・公募により選定された研究者を領域代表者として、令和2年度に、「令和3年 科学研究費助成事業学術変革領域研究（A）」に研究計画を申請し、令和3年度から5年間の研究費を獲得：一部達成【12名の計画研究代表者のうち5名が若手研究者で構成された研究課題を申請、令和3年度は不採用の通知が来たが、今後も継続していく】
- 研究支援体制：システマティックレビュー（SR）作成 ＜須釜副理事長＞
 - ①現在実施中の「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」SRチームメンバーによる論文作成2本：50%達成【英語論文1本採択】
 - ②新規ガイドラインのSRチームメンバーの若手研究者割合60%以上：
 - 達成【3つのSRチームでいずれも若手研究者割合60%以上（84.5～100%）】
- 若手研究者を支援する立場にある指導者への実態調査 ＜仲上理事＞
 - ※COVID-19感染拡大の影響を受け、調査内容を変更（別項「COVID-19対策」を参照）

・国際化

- 国際学会発表助成 ＜池田理事＞
 - ①JANS学術集会での英語演題数30題（留学生が参加できるようにし、若手研究者がネットワーキングできるようにする）：達成【英語演題数43：JANS40, 2020】
 - ②WANS学術集会に若手研究者企画シンポジウムを開催する：一部達成
 - 【WANS学術集会の対面開催中止に伴い、WANS学術集会で予定していた若手研究者企画シンポジウムをJANS40にて開催】
 - ③海外学会で講演発表する若手研究者の学会参加費を支援
- 海外研究助成 ＜鈴木理事＞
 - ・派遣先との共同研究、海外研修後学会誌に研究論文を掲載：2名選定（1年間の海外留学）

・COVID-19対策

COVID-19の蔓延に伴い、看護学研究者への影響並びに学会による支援活動を検討するために委員会を新設し、会員への調査を実施

- COVID-19看護研究等対策 < 仲上理事 >

①アンケート調査結果のJANS若手研究者へのフィードバックとして、JANS40にて調査内容を報告：達成【JANS40の若手ネットワークサロンにて調査内容を報告】

②得られた調査のデータ分析および論文執筆を行う研究参加者の公募：達成【分担研究6件を採択】

6. 若手研究者育成に向けた次期理事会への引継ぎ事項 (p. 44)

①論文公表の場の整備

- インパクトファクターのアップ

・目標は、イギリスの大学評価機関のクアクアレリ・シモンズ (QS) が毎年9月に公表している世界の大学のランキングであるQS世界大学ランキングで、本邦の大学が50位以内に2校以上入ることを学会として目指せないだろうか。

・本邦では現在まだ1校もなく、看護学研究の質を向上させ、底上げすることが必要

・日本が発行する英文誌のクオリティを高めていくことが課題であり、そのインディケーターとなるのが英文誌のインパクトファクター

・インパクトファクター向上のためには、多くの質の高い論文の公表が重要であり、看護学の発展と研究者養成を主軸とする当学会がその一翼を担うことが必要

資料p. 51-54の「日本の看護系大学が発表する論文データ」などをもとに、日本の看護系論文の動向についての説明があった。

日本の看護系論文の動向として、国別論文数は7位であり、これを5位まで上げることを目標としたい。また、近年英文誌論文数は増えており、和文掲載の英語論文は減っていることから、英語論文を和文誌ではなく英文誌に投稿する傾向にあると考えられ、良い方向に向いている。なお、大学院博士課程のある大学に所属する研究者は、論文の投稿先として英文誌を選択することが増えているので、当学会の英文誌をぜひ利用してほしい。

国際共同研究は年々増加しており（2020年には40件が該当）、国際共同研究の論文数増加は、日本の看護学研究者の国際化を反映するデータの一つと考えられる。

そこで今後の対応として以下を提案する。

- 和文誌、英文誌の投稿数増加に対応した予算措置
- 和文誌への修士論文、英文誌への博士論文の投稿奨励
- 学術集会での表彰と論文化

②研究能力の向上

- ガイドラインの作成への若手研究者の参画の推進
- 大型研究費獲得と若手研究者の分担研究の推進
- 過去に開催したJANSセミナーのライブラリ化
- 学会主導で収集した調査結果のオープンソース化

③国際化

- 学術集会での英語発表数のさらなる増加
- 助成金制度を活用した国際共同研究の推進

最後に、この2年間の活動に関し、理事・監事、ならびに社員に感謝の意を述べ、上記の活動報告が真田理事長のまとめの挨拶となった。

なお、総会終了後に新理事長と副理事長による挨拶があった。

新理事長・新副理事長挨拶

堀内成子新理事長より、以下の挨拶があった。

設立40年の節目を迎え、会員数が1万人に届く中、伝統ある学会の理事となり身の引き締まる思いである。2020年からはCOVID-19の感染拡大により、多くの研究者の活動が制限された一方で、調査の時間を論文執筆の時間として活用したり、方法論を変更して研究を継続するなど、研究への取り組みは続けられていた。本学会の目的は、看護学の発展による社会貢献であり、今後もこの目的に沿って研究活動を支援・実施していきたいと思う。特に、今期の理事会が率いてきた若手研究者への支援については、これを継続し、さらに発展させたいと考えている。また、監事から指摘のあった公益社団法人としての取り組みについても、今後も検討していきたい。新理事会で選任された理事の方々や会員の皆様と協力して、より良い学会となるよう運営していきたい。今期の真田理事長をはじめ理事の皆様へ心より感謝申し上げる。

法橋新副理事長より、以下の挨拶があった。

理事長を支えることが強靱な組織、ひいては看護学の発展や人々の健康、福祉に繋がっていくものとする。本学会の歴史を振り返ると、男性の副理事長は自分で二人目であり、ダイバーシティのメリットを活かすことができればと思う。また、これまでの国際的な学会活動の経験も、本学会の運営に際して活かしていきたいと考えている。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

VII. 閉会

出席者は本学会全社員312名中、会場参加者と有効委任状および議決権行使で、有効出席者数260名であったとの報告があり、2021年6月定例（定時）社員総会は閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め、記名押印する。

2021年 8月 3日

議 長 真田 弘美 ㊟

議事録署名人 河野あゆみ ㊟

議事録署名人 征矢野あや子 ㊟

㊟

㊟

㊟

公益社団法人日本看護科学学会 2021年6月定例社員総会 議案書

日 時 2021年6月13日(日) 11:00~13:30(予定)

場 所 WEB開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

【議事次第】

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 議長指名および議事録署名人の承認
- IV. 報告事項
 1. 理事会および社員総会報告
 2. 総務報告
 3. 2020年度事業報告
 - (1) 第40回日本看護科学学会学術集会開催
 - (2) 第41回・第42回日本看護科学学会学術集会準備
 - (3) 和文誌編集委員会
 - (4) 英文誌編集委員会
 - (5) 表彰論文選考委員会
 - (6) 研究・学術推進委員会
 - (7) 看護ケア開発・標準化委員会
 - (8) 若手研究者活動推進委員会
 - (9) 国際活動推進委員会(世界看護科学学会を含む)
 - (10) 看護学学術用語検討委員会
 - (11) 社会貢献委員会
 - (12) 広報委員会
 - (13) 看護倫理検討委員会
 - (14) 利益相反委員会
 - (15) 研究倫理審査委員会
 - (16) 災害看護支援委員会
 - (17) 若手研究者助成準備委員会
 - (18) 会則等委員会
 - (19) COVID-19看護研究等対策委員会
 - (20) 総務委員会
 - (21) 他機関との連携活動
 - ① 日本看護系学会協議会(JANA)
 - ② 看護系学会等社会保険連合(看保連)
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の機関
 - (22) 選挙管理委員会
- V. 審議事項
 - 第1号議案 理事候補者の承認
 - 第2号議案 2020年度決算の承認および会計監査の報告
 - 第3号議案 2021年度事業計画変更(案)と補正予算(案)について
 - 第4号議案 名誉会員の承認
- VI. 理事会(2019-2020)からの報告
- VII. 閉会

公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 真田 弘美

副理事長 須釜 淳子

理事：池田 真理、石橋 みゆき、岡谷 恵子、亀井 智子、鈴木 みずえ、田中 マキ子、
仲上 豪二郎、永田 智子、樋之津 淳子、深堀 浩樹、堀内 成子、宮下 光令、
安酸 史子

監事：南 裕子、村嶋 幸代

名誉会員

阿曾 洋子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、川嶋 みどり、
川村 佐和子、小島 操子、小玉 香津子、近藤 潤子、新道 幸恵、中島 紀恵子、
林 滋子、樋口 康子、松野 かほる、矢野 正子、山崎 智子

賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、(株)へるす出版

(以上、五十音順・2021年4月1日現在)

日本看護科学学会学術集会会長

第41回学術集会会長 第42回学術集会会長 第43回学術集会会長

百瀬 由美子

森山 美知子

田中 マキ子

社員

【北海道】

大日向 輝美
川村 三希子
菊地 ひろみ
今野 美紀
澤田 いずみ
城丸 瑞恵
照井 レナ
長谷川 真澄
樋之津 淳子
平 典子
松浦 和代
矢野 理香
吉田 礼維子

【東北】

朝倉 京子
安藤 広子
石井 範子
一戸 とも子
遠藤 恵子
大森 純子
尾崎 章子
角濱 春美
桑名 佳代子
小林 淳子
武田 淳子
武田 利明
鄭 佳紅
野戸 結花
原 玲子
藤田 あけみ
古瀬 みどり
宮下 光令
吉田 俊子

【関東A】

飯田 苗恵
市村 久美子
牛久保美津子
内田 陽子
岡 美智代
金子 昌子
加納 尚美
神田 清子
近藤 浩子
齋藤 基
佐藤 由美
鈴木 幸子
高井 ゆかり

常盤 洋子
巴山 玉蓮
春山 早苗
廣瀬 規代美
二渡 玉江
古谷 佳由理
松田 安弘
水野 道代
村井 文江
村上 礼子
安酸 史子
横山 京子
六角 僚子

【関東B】

荒木田美香子
飯村 直子
池崎 澄江
石橋 みゆき
上野 まり
岡田 忍
数間 恵子
勝山 貴美子
金井 PAK 雅子
黒田 裕子
近藤 まゆみ
齋藤 やよい
佐藤 禮子
茂野 香おる
島袋 香子
白水 真理子
高橋 眞理
田高 悦子
手島 恵
永田 智子
中山 登志子
深堀 浩樹
正木 治恵
眞嶋 朋子
増島 麻里子
松下 年子
水戸 優子
村上 明美
村中 陽子
森 明子
森 恵美
湯浅 美千代
吉田 澄恵
和住 淑子

渡邊 眞理

【東京A】

五十嵐 歩
大江 真琴
大久保 暢子
大田 えりか
柏木 聖代
片岡 弥恵子
上別府 圭子
亀井 智子
戈木クレイグ
ヒル 滋子
眞田 弘美
習田 明裕
武村 雪絵
田中 眞琴
仲上 豪二朗
中山 和弘
成瀬 昂
春名 めぐみ
堀内 成子
前田 樹海
宮本 有紀
吉田 千文

【東京B】

阿部 幸恵
飯野 京子
池田 眞理
井上 智子
井村 眞澄
江本 リナ
大久保 功子
太田 喜久子
岡谷 恵子
柏木 公一
香春 知永
亀岡 智美
川原 由佳里
北 素子
草間 朋子
小松 浩子
佐々木 幾美
佐藤 紀子
田中 美恵子
筒井 眞優美
長江 弘子
本庄 恵子
守田 美奈子

山内 豊明
吉田 みつ子

綿貫 成明

【甲信越】

會田 信子
浅川 和美
有森 直子
遠藤 みどり
定方 美恵子
征矢野あや子
中込 さと子
平澤 則子
安田 貴恵子
八尋 道子

【北陸】

石垣 和子
大乗 麻由美
加藤 眞由美
北岡 和代
須釜 淳子
長谷川 智子
平松 知子
松井 優子
丸岡 直子

【東海】

明石 恵子
浅野 みどり
足立 はるゑ
足立 久子
安藤 詳子
池松 裕子
市江 和子
大石 ふみ子
大島 弓子
太田 勝正
大西 文子
岡田 由香
片岡 純
片山 はるみ
門間 晶子
篠崎 恵美子
島内 節
白尾 久美子
白鳥 さつき
杉浦 太一
鈴木 みずえ
多喜田 恵子
奈良間 美保

野口 眞弓
深田 順子
藤井 徹也
古田 加代子
本田 育美
操 華子
箕浦 哲嗣
三吉 友美子
柳澤 理子
山田 紀代美
山田 聡子
渡邊 順子

【近畿A】

赤澤 千春
秋元 典子
東 ますみ
池田 清子
石井 豊恵
井上 智子
ウィリアムソ
ン 彰子

内布 敦子
江川 幸二
江川 隆子
大野 かおり
大野 ゆう子
片田 範子
勝原 裕美子
工藤 美子
久米 弥寿子
グライナー 智
恵子
黒田 裕子
洪 愛子
河野 あゆみ
近藤 麻理
清水 安子
鈴木 久美
瀬戸 奈津子
高橋 弘枝
玉木 敦子
都筑 千景
泊 祐子
檜木野 裕美
二宮 啓子
簀持 知恵子
林 千冬
法橋 尚宏

前川 幸子
牧本 清子
松田 宣子
丸 光恵

【近畿B】

吾妻 知美
伊波 早苗
岩脇 陽子
遠藤 俊子
岡山 寧子
桂 敏樹
河原 宣子
竹之内 沙弥香
内藤 知佐子
西垣 昌和
西田 直子
藤本 幸三
星野 明子
松月 みどり
吉岡 さおり
若村 智子

【中国・四国】

吾郷 美奈恵
畦地 博子
井伊 久美子
伊東 美佐江
内田 宏美
瓜生 浩子
大川 宣容
岡田 淳子
雄西 智恵美
折山 早苗
掛田 崇寛
片山 陽子
岸田 佐智
久保田 聡美
小山 眞理子
陶山 啓子
祖父江 育子
竹崎 久美子
長戸 和子
中西 純子
中山 洋子
野嶋 佐由美
野本 百合子
原 祥子
百田 武司
深田 美香

藤田 佐和	【九州・沖縄】	影山 隆之	谷口 初美	前田 ひとみ
南 裕子	飯野 英親	神里 みどり	田村 やよひ	益守 かづき
宮下 美香	宇佐美 しおり	金城 芳秀	長家 智子	松浦 賢長
森下 安子	宇都 由美子	国府 浩子	永松 有紀	三橋 睦子
森本 美智子	江藤 宏美	斉藤 ひさ子	野間口 千香穂	宮園 真美
森山 美知子	大池 美也子	佐藤 香代	橋口 暢子	宮林 郁子
薬師神 裕子	岡崎 美智子	正野 逸子	日高 艶子	村嶋 幸代
山田 覚	尾形 由起子	竹熊 千晶	藤田 君支	村田 節子

以上、312名
地区別
五十音順

(2021年4月1日現在)

公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

2020年度第1回理事会

日 時：2020年5月22日（金） 13：00～15：30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）ほか

出席者：理事15名、監事2名、第40回学術集会会長 ※全出席者 Web 参加

〈審議事項〉

1. 第40回日本看護科学学会学術集会（JANS40）の準備状況
2. 総務会からの提案
 - 1) 名誉会員の推薦について
 - 2) 若手研究者養成助成について
 - 3) 12月社員総会、第40回学会総会について
 - 4) COVID-19に関するアドホック委員会について
 - 5) その他
3. 2020年6月定例社員総会の議案の承認と進行分担表の確認
4. 各委員会からの報告および審議事項
 - 1) 和文誌編集委員会
 - 2) 英文誌編集委員会
 - 3) 表彰論文選考委員会
 - 4) 研究・学術推進委員会
 - 5) 看護ケア開発・標準化委員会
 - 6) 若手研究者活動推進委員会
 - 7) 国際活動推進委員会
 - 8) 看護学学術用語検討委員会
 - 9) 社会貢献委員会
 - 10) 広報委員会
 - 11) 看護倫理検討委員会
 - 12) 利益相反委員会
 - 13) 研究倫理審査委員会
 - 14) 災害看護支援委員会
 - 15) 総務委員会
 - 16) 他団体との連携について

- ・ 日本看護系学会協議会
 - ・ 看護系学会等社会保険連合（看保連）
 - ・ 日本学術会議
 - ・ その他の団体
5. 入会希望者の承認
 6. その他

2020 年度第 2 回理事会

日 時：2020 年 6 月 14 日（日） 10：00～10：50

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 15 名、監事 2 名 ※全出席者 Web 参加

〈審議事項〉

1. 総務会からの提案、報告
 - 1) 第 40 回学術集会での理事会企画関連について
 - 2) 若手研究者活性化に向けての取り組み報告書について若手報告書案
 - 3) COVID-19 看護研究等対策委員会について
 - 4) 会則等委員会（仮称）について
2. 2020 年 6 月定例社員総会議案について
 - 1) 2020 年 6 月定例社員総会資料の確認
 - 2) 議事進行および役割分担の確認
3. 委員会からの審議事項
4. 入会希望者の承認

2020 年度第 3 回理事会

日 時：2020 年 8 月 24 日（月） 13：00～16：00

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）ほか

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 40 回学術集会会長、第 41 回学術集会会長、WANS 理事長

※全出席者 Web 参加

〈審議事項〉

1. 世界看護科学学会（WANS）からの報告
2. 第 40 回日本看護科学学会学術集会（JANS40）の準備状況
3. 第 41 回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
4. 総務会からの提案について
 - 1) 第 43 回学術集会の開催地と学術集会会長について

- 2) 12月社員総会と第40回学会総会について
5. 新規事業について
 - 1) COVID-19 看護研究等対策委員会 アンケートについて
 - 2) 若手研究者養成助成について
 - 3) 会則等委員会について
6. 会計報告（各委員会予算執行状況）
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 入会希望者の承認

2020年度第4回理事会

日時：2020年11月6日（金） 13：00～16：10

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）ほか

出席者：理事13名、監事1名、第40回学術集会会長、第41回学術集会会長、選挙管理委員長

※全出席者 Web 参加

〈審議事項〉

1. 第40回日本看護科学学会学術集会（JANS40）の準備状況
2. 第41回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
3. 2021年選出理事候補者選挙について
4. 総務会からの提案について
 - 1) 第43回日本看護科学学会学術集会（JANS43）会長（案）について
 - 2) 日本看護系学会協議会2021-2022役員候補者推薦について
 - 3) ヘルシー・ソサエティ賞のオンライン授賞式について
5. 12月社員総会の議案の承認、実施方法の確認、進行分担表の確認
6. 第40回学会総会の議案の承認、実施方法の確認、進行分担表の確認
7. 会計報告（2020年度委員会活動費執行状況）
8. 各委員会からの報告および審議事項
9. 入会希望者の承認

2020年度第5回理事会

日時：2020年12月11日（金） 14：00～15：30

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）ほか

出席者：理事15名、監事2名 ※全出席者 Web 参加

〈審議事項〉

1. 総務会からの提案について

2. 2020年12月社員総会の資料と進行分担表の確認
3. 第40回学会総会の資料と進行分担表の確認
4. 各委員会からの審議事項
5. 入会希望者の承認

2020年度第6回理事会

日時：2021年2月19日（金） 13：00～16：03

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事15名、監事2名、第40回学術集会会長、第41回学術集会会長

※全出席者 Web 参加

〈審議事項〉

1. 第40回日本看護科学学会学術集会（JANS40）の報告
2. 第41回日本看護科学学会学術集会（JANS41）の準備状況
3. 1.総務会からの提案
2. 2020年度決算見込みと会費配分率について
3. 定款施行細則の改正
4. 各委員会からの報告および審議事項と予算執行状況について
5. 2021年6月定例社員総会の開催について
6月定例社員総会の議事次第（案）と欠席者の議決権の行使方法について
6. 入会希望者の承認

公益社団法人日本看護科学学会 社員総会報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

2020年6月定例社員総会

日時 2020年6月14日(日) 11:00～13:30

場所 日本看護科学学会事務所ほか(Webによる開催)

総社員数: 312名

出席社員数: 225名 (Web16名 委任状209名)

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 議長指名および議事録署名人の承認
- IV. 報告事項
 1. 理事会および社員総会報告
 2. 総務報告
 3. 2019年度事業報告
 - (1) 第39回日本看護科学学会学術集会開催
 - (2) 第40回・第41回日本看護科学学会学術集会準備
 - (3) 和文誌編集委員会
 - (4) 英文誌編集委員会
 - (5) 表彰論文選考委員会
 - (6) 研究・学術推進委員会
 - (7) 看護ケア開発・標準化委員会
 - (8) 若手研究者活動推進委員会
 - (9) 国際活動推進委員会 (世界看護科学学会を含む)
 - (10) 看護学学術用語検討委員会
 - (11) 社会貢献委員会
 - (12) 広報委員会
 - (13) 看護倫理検討委員会
 - (14) 利益相反委員会
 - (15) 研究倫理審査委員会
 - (16) 災害看護支援委員会
 - (17) 総務委員会
 - (18) 他機関との連携活動
 - ① 日本看護系学会協議会 (JANA)
 - ② 看護系学会等社会保険連合 (看保連)
 - ③ 日本学術会議
 - ④ その他の機関
 - (19) 選挙管理委員会
- V. 審議事項
 - 第1号議案 2019年度決算の承認および会計監査の報告
 - 第2号議案 名誉会員の承認
- VI. 2020年度報告事項
 1. 和文誌著者要件に関するアンケート結果について
 2. 若手研究者海外助成について
 3. 会則等委員会(仮称)の設置の必要性
 4. COVID-19に関するアドホック委員会の設置について
- VII. 閉会

2020年12月社員総会

日 時 2020年12月11日（金）16：00～18：30

場 所 Web開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

総社員数：312名

出席社員数：289名（Web出席133名 委任状138名 議決権行使18名）

I. 開 会

II. 理事長挨拶

III. 第40回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

VI. 審議事項

第1号議案 2020年度事業計画変更（案）と補正予算（案）の承認

第2号議案 定款（第3条）変更（案）の承認

第3号議案 2021年度事業計画（案）の承認

第4号議案 2021年度予算（案）の承認

第5号議案 第43回日本看護科学学会学術集会会長の承認

VII. 「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」報告

VIII. 閉 会

総務報告

1. 会員推移 (2020年4月1日～2021年3月31日)

1) 正会員数増減

①2020年4月1日正会員数

9,129名 = 2020年3月31日正会員数9,751名 - 2020年度資格喪失者622名
(自主退会384名、会費未納238名)

②2020年度の入会者

803名 = 新規入会724名 + 再入会79名

③2020年度の死亡喪失者 7名

④会員区分の変更 1名 (正会員から名誉会員)

2) 賛助会員増減

なし

3) 名誉会員

承認 1名

4) 2021年3月31日現在 会員数

正会員 9,924

名誉会員 17

賛助会員 4

会員総数 9,945

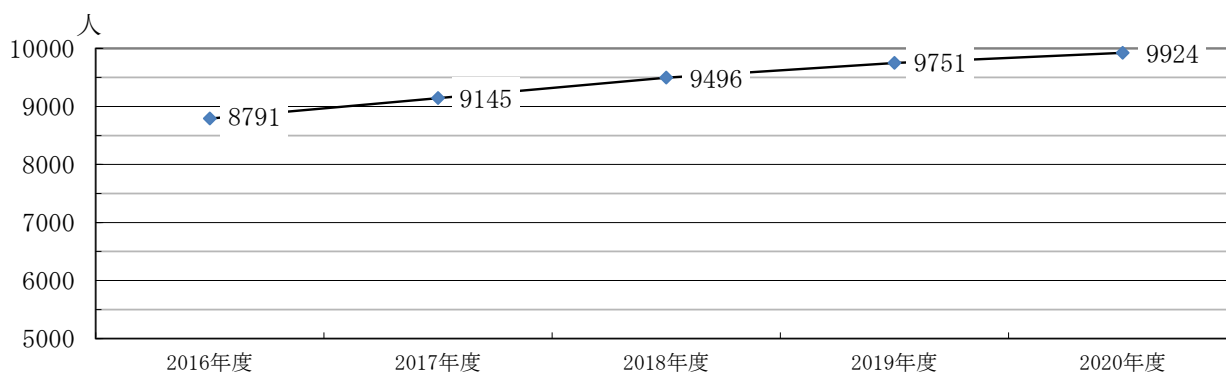
2. 地区別正会員数 (2021年4月1日 会員数9,311名)

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道	北海道	373	北陸	富山	90	九州・沖縄	福岡	446	
				石川	172		佐賀	50	
福井	69	長崎		68					
東北	北	556	東海	静岡	186		熊本	70	
				愛知	495		大分	43	
				岐阜	198		宮崎	65	
				三重	144		鹿児島	46	
				近畿 A	大阪		576	沖縄	85
関東 A	茨城	143	近畿 B	兵庫	531	宛先不明者		43	
				栃木	126	滋賀	102	合計	9,311
				群馬	163	京都	243		
関東 B	千葉	500	中国・四国	奈良	90				
				神奈川	576	和歌山	48		
東京 A	※1		929	鳥取	40				
	654			島根	56				
東京 B	※2			岡山	177				
	767			広島	262				
甲信越	新潟	122		山口	48				
				長野	118	徳島	58		
			山梨	75	香川	63			
			愛媛	102					
			高知	123					

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3. 正会員数の推移 (年度別)



公益社団法人日本看護科学学会 2019-2020年度委員会名簿

※所属機関名は2021年5月10日現在の会員登録データに基づいています。

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
和文誌編集	委員長/編集長	宮下 光 令	東北大学大学院
	編集長	春名 めぐみ	東京大学大学院
	編集長	河野 あゆみ	大阪市立大学大学院 看護学研究科 在宅看護学領域
		宇佐 美しおり	四天王寺大学
		江本 りなり	日本赤十字看護大学
		高井 ゆかり	群馬県立県民健康科学大学
		玉木 敦子	神戸女子大学院
		成瀬 昂	東京大学大学院
		長谷川 真澄	札幌医科大学
		春山 早苗	自治医科大学
		松井 優子	公立小松大学
		宮本 有紀	東京大学大学院
		森本 美智子	岡山大学大学院
		落合 亮太子	横浜市立大学
		梶井 文子	東京慈恵会医科大学
		キタ 幸子	国立成育医療研究センター
		酒井 明子	井大 一学院
		佐藤 伊織	東京大学大学院
		鶴若 麻理輝	聖路加国際学院
	英文誌編集	委員長	WILLIAM L. HOLZEMER
理事		堀内 成子	聖路加国際大学
		深堀 浩樹	慶應義塾大学
		北岡 和代	公立小松大学
		グライナー 智恵子	神戸大学大学院
		野口 眞弓	日本赤十字豊田看護大学
		前田 ひとみ	熊本県立大学
		操 華子	静岡県立大学
		若村 智子	京都大学大学院
		池田 理恵子	岡山県立大学
		石川 陽子	東京都立大学
		石原 逸子	東京都市大学
		梅田 麻希	神戸市看護大学
		加藤 憲司	兵庫県立大学
		グレッグ 美鈴	神戸市看護大学
		小林 京子	神戸市看護大学
		コリ 一紀	聖路加国際大学
		齋藤 あや穂	北海道大学大学院
		鈴木 美ルミ	新聖路加国際大学
		月野 木 鈴子	東京医科歯科大学
	中村 美代子	東京慈恵会医科大学	
	深井 喜昭	東京慈恵会医科大学	
	丸山 みやえ	松陰大学	
	山崎 あけみ	大阪大学	
	江藤 宏美	大阪大学	

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
表彰論文選考	委員長 理事 理事	亀井智子 宮下光令 堀内成子 赤澤千春 牛久保美津 野間口千香 長谷川真澄	聖路加国際大学大学院 東北大学大学院 聖路加国際大学 大阪医科大学薬科大学 群馬大学 宮崎大学 札幌医科大学
	会計		
研究・学術推進	委員長	深堀浩樹 大久保暢子 武村雪絵 小池智子 酒井郁子 新福洋子 廣岡佳代 福井小紀 五十嵐歩	慶應義塾大学 金沢大学 聖路加国際大学 東京大学 慶應義塾大学 千葉大学 広島大学 東京医療保健大学 東京医科歯科大学 東京大学
	会計		
看護ケア開発・標準化	委員長 理事	須釜淳子 真田弘美 石橋みゆき 大田えりか 鎌倉やよい 山田雅一 才藤栄夫 中野山村岳志	藤田医科大学 東京大学 千葉大学 聖路加国際大学 日本赤十字豊田看護大学 聖路加国際大学 藤田医科大学 京都大学 東京女子医科大
	外部委員 外部委員		
若手研究者活動推進	委員長	仲上豪二朗 田中江真琴 大久保暢子 坂梨左織 新福川直人 長谷野恵一 水横田尚裕 吉永田裕子 麦田裕子	東京大学 山口県立大学 東山金沢国際大学 聖路加岡大学 福広島治医科大学 自淑徳京崎大学 東宮東大 東京大学
	会計		
国際活動推進	委員長	池田真理 片田範子 金井PAK雅子 高井ゆかり 竹之内沙弥香 中山洋子 グレッジ美鈴子 小林美鈴子 中村瀬理子 成瀬和理子 柳川みやえ 山宮本有紀	東京女子医科大 関西医科大学 西医学院 関東立民健康科学大 群馬県立健康科学大 京都大学 高知県立看護大 高知市看護大 聖路加国会医科大 東京慈恵医科大 東愛知県立大 大阪大学 東大
	会計		

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
看護学 学術用語検討	委員長	安 酸 史 子 長 江 弘 子 和 住 淑 子 大 村 佳 代 子 小 野 博 史 田 中 晴 佳 布 谷 麻 耶 瀬 戸 奈 津 子	関 西 医 科 大 学 東 京 女 子 医 科 大 学 千 葉 大 学 兵 庫 県 立 大 学 名 古 屋 大 学 武 庫 川 女 子 大 学 関 西 医 科 大 学
	会計	鈴 木 み ず え 大 原 良 子 木 戸 芳 史 寺 本 千 恵 鈴 木 美 奈	浜 松 医 科 大 学 愛 知 県 立 大 学 浜 松 大 学 広 島 大 学 浜 松 医 科 大 学
社会貢献	委員長	田 中 マ キ 子 内 藤 知 佐 子 遠 藤 み ど り 法 橋 尚 宏 子 水 戸 優 子 箕 浦 哲 嗣 子 丹 住 佳 子	山 口 県 立 大 学 京 都 大 学 山 梨 県 立 大 学 神 戸 大 学 神 奈 川 県 立 保 健 福 祉 大 学 神 奈 川 県 立 大 学 山 口 県 立 大 学
	会計	樋 之 津 淳 子 會 田 信 子 大 日 向 輝 美 村 井 文 江 子 古 都 昌 子 武 富 貴 久 子	札 幌 市 立 大 学 信 州 医 科 大 学 札 幌 醫 大 常 磐 大 学 鳥 取 看 護 大 学 札 幌 市 立 大 学
広報	委員長	樋 之 津 淳 子 會 田 信 子 大 日 向 輝 美 村 井 文 江 子 古 都 昌 子 武 富 貴 久 子	札 幌 市 立 大 学 信 州 医 科 大 学 札 幌 醫 大 常 磐 大 学 鳥 取 看 護 大 学 札 幌 市 立 大 学
	会計	鈴 木 み ず え 仲 上 豪 二 朗 子 會 田 信 子 麻 原 き よ ゐ み 片 山 は る み 大 磯 義 一 郎	浜 松 医 科 大 学 東 京 大 学 信 州 大 学 聖 路 加 国 際 大 学 松 山 医 科 大 学 浜 松 医 科 大 学 法 学 (医 師 ・ 弁 護 士)
看護倫理 検討	委員長	岡 谷 恵 子 副 委 員 長 田 早 苗 高 田 佳 紅 鄭 佳 邦 彦 隈 本 邦 彦 戸 塚 実 緒 友 納 理 緒	四 天 王 寺 大 学 一 般 財 団 法 人 日 本 看 護 学 教 育 評 価 機 構 青 森 県 立 保 健 大 学 江 戸 川 大 学 長 野 県 立 こ ど も 病 院 土 肥 法 律 事 務 所
	外部委員	永 田 智 子 宇 佐 美 し お り 河 原 宣 子 近 藤 麻 理 志 松 永 篤 千 志 寺 本 千 恵	慶 應 義 塾 大 学 四 天 王 寺 大 学 京 都 橘 大 学 関 西 医 科 大 学 東 北 大 学 広 島 大 学
利益相反	委員長	鈴 木 み ず え 仲 上 豪 二 朗 子 會 田 信 子 麻 原 き よ ゐ み 片 山 は る み 大 磯 義 一 郎	浜 松 医 科 大 学 東 京 大 学 信 州 大 学 聖 路 加 国 際 大 学 松 山 医 科 大 学 浜 松 医 科 大 学 法 学 (医 師 ・ 弁 護 士)
	外部委員	岡 谷 恵 子 副 委 員 長 田 早 苗 高 田 佳 紅 鄭 佳 邦 彦 隈 本 邦 彦 戸 塚 実 緒 友 納 理 緒	四 天 王 寺 大 学 一 般 財 団 法 人 日 本 看 護 学 教 育 評 価 機 構 青 森 県 立 保 健 大 学 江 戸 川 大 学 長 野 県 立 こ ど も 病 院 土 肥 法 律 事 務 所
研究倫理 審査	委員長	永 田 智 子 宇 佐 美 し お り 河 原 宣 子 近 藤 麻 理 志 松 永 篤 千 志 寺 本 千 恵	慶 應 義 塾 大 学 四 天 王 寺 大 学 京 都 橘 大 学 関 西 医 科 大 学 東 北 大 学 広 島 大 学
	外部委員	鈴 木 み ず え 池 田 真 理 グ レ ッ グ 美 鈴 子 須 釜 淳 子 仲 上 豪 二 朗 樹 子 深 堀 浩 成 樹 子 宮 内 光 令 彦 丹 野 義 彦	浜 松 医 科 大 学 東 京 女 子 看 護 大 学 神 戸 市 医 科 大 学 藤 田 大 学 東 京 大 学 慶 應 義 塾 国 際 大 学 聖 路 加 国 際 大 学 東 北 大 学 心 理 学 会
災害看護 支援	委員長	永 田 智 子 宇 佐 美 し お り 河 原 宣 子 近 藤 麻 理 志 松 永 篤 千 志 寺 本 千 恵	慶 應 義 塾 大 学 四 天 王 寺 大 学 京 都 橘 大 学 関 西 医 科 大 学 東 北 大 学 広 島 大 学
	外部委員	鈴 木 み ず え 池 田 真 理 グ レ ッ グ 美 鈴 子 須 釜 淳 子 仲 上 豪 二 朗 樹 子 深 堀 浩 成 樹 子 宮 内 光 令 彦 丹 野 義 彦	浜 松 医 科 大 学 東 京 女 子 看 護 大 学 神 戸 市 医 科 大 学 藤 田 大 学 東 京 大 学 慶 應 義 塾 国 際 大 学 聖 路 加 国 際 大 学 東 北 大 学 心 理 学 会
若手研究者 助成選考	委員長	永 田 智 子 宇 佐 美 し お り 河 原 宣 子 近 藤 麻 理 志 松 永 篤 千 志 寺 本 千 恵	慶 應 義 塾 大 学 四 天 王 寺 大 学 京 都 橘 大 学 関 西 医 科 大 学 東 北 大 学 広 島 大 学
	外部委員	鈴 木 み ず え 池 田 真 理 グ レ ッ グ 美 鈴 子 須 釜 淳 子 仲 上 豪 二 朗 樹 子 深 堀 浩 成 樹 子 宮 内 光 令 彦 丹 野 義 彦	浜 松 医 科 大 学 東 京 女 子 看 護 大 学 神 戸 市 医 科 大 学 藤 田 大 学 東 京 大 学 慶 應 義 塾 国 際 大 学 聖 路 加 国 際 大 学 東 北 大 学 心 理 学 会

公益社団法人 日本看護科学学会 2020年度事業報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(1) 第40回日本看護科学学会学術集会開催

- ・第40回日本看護科学学会学術集会（JANS40）を萱間真美学術集会会長のもと、2020年12月12日（土）・12月13日（日）の2日間を中心に12月1日～25日までオンライン（Web）にて開催した。メインテーマは「看護科学のImplementation」、参加者総数4,518名であった。
- ・最終演題数1,038題（口演311題、示説678題、交流集会49題）、ランチョンセミナー8件、市民公開講座「私の仕事（作家 浅田次郎氏）」参加者数1,450名、若手ネットワークサロン ページビュー数897回であった。

(2) 第41回・第42回日本看護科学学会学術集会準備

- ・第41回日本看護科学学会学術集会（JANS41）を百瀬由美子学術集会会長のもと、2021年12月4日（土）から12月5日（日）の2日間、名古屋国際会議場にて開催予定である。メインテーマは「共創による新たな看護科学の可能性」である。
（新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないことから、2021年4月30日にWeb開催とすることに決まった）。
- ・第42回日本看護科学学会学術集会（JANS42）を森山美知子学術集会会長のもと、2022年12月3日（土）から12月4日（日）の2日間、広島国際会議場他にて開催予定である。

(3) 和文誌編集委員会（宮下光令理事）

学会誌（日本看護学会誌）の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

① 日本看護科学学会誌（電子ジャーナル）の発刊

- ・日本看護科学学会誌40巻をオンラインで発刊した。
- ・2020年1月～12月の投稿数は、193編であった（前年は151編）。
- ・第40巻（2020年1月～12月）随時掲載の論文数は、論壇0編、総説8編、原著論文59編、短報0編、資料10編、その他0編の計77編であった（前年は、論壇0編、総説4編、原著論文31編、短報0編、資料8編、その他0編の計43編）。
- ・投稿規程における著者要件の変更、迅速査読の導入が決定したため、2020年11月1日から新投稿規程の適用を実施した。
- ・論文公開時には会員向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・そのほか、投稿規程等の改定、若手支援策など適宜メールングリストで意見交換しながら進めている。
- ・表彰論文選考に参画した。

② 和文誌の著者要件について検討

- ・代議員312名に対し、Web調査を実施した（実施期間2020年4月17日～4月30日）。アンケートの結果に基づき、「段階的に共著者の学会員要件の廃止を検討する。当面、筆頭著者は会員である必要があ

るが、共著者は非会員でもよく、採択後に掲載料を徴収する」ことについて、2020年度第1回理事会（5月22日）に提案し承認された。2020年11月1日から本件を含んだ新投稿規程の適用を実施した。

③ 迅速査読の導入

・迅速査読制度について検討し、2020年11月1日から本件を含んだ新投稿規程の適用を実施した。

④ 更なる投稿規程等の見直しに関する検討

・2021年3月に修士論文・博士論文を含んだ更なる投稿数の増加、査読に要する日数の短縮化などを目標とした投稿規程などの全般的な見直しに着手した。本件は本委員会でもとめ次期委員会に申し送る予定である。

⑤ 第40回学術集会にて交流集会「JANS 和文誌に修士論文・博士論文を載せよう！」を開催

（2020年12月12日、10:20～10:40、Zoom・LIVE配信）。

委員会開催：2回（2020年7月2日、2021年3月18日）オンライン

(4) 英文誌編集委員会（堀内成子理事）

日本から世界へ学術情報を発信するため2004年から英文誌（Japan Journal of Nursing Science「JJNS」）の発行を開始、2014年からはonline-only journalとして、年4回の発行を実施。またJJNSセミナーも開催。

① Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol.17 をオンラインで発刊した。
- ・2020年1月～12月の投稿論文数は、692編であった（前年は496編）。
- ・表彰論文選考に参画した。
- ・2019年のimpact factorは、0.806であった（2020年6月発表による）。

② 迅速査読の導入

2020年3月、Fast Track Review（迅速査読）の受付を開始した（博士号の学位申請、または、博士号取得後1年以内に論文公開の必要がある会員の投稿が対象）。

（2020年20編・2021年4月30日現在 14編）

③ JJNS セミナーの開催

・JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2020 をWeb開催した。

第I期(12月21日から1月31日配信)登録者数 228名

第II期(2月1日から2月28日配信)登録者数 122名

④ 出版社との契約更新内容検討中

・2022年以降の契約更新プロポーザルを受け取り、検討中。

委員会開催：2回（2020年5月21日と2021年1月28日）オンライン

(5) 表彰論文選考委員会（亀井智子理事）

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行う。

① 表彰論文の選考

日本看護科学学会が発行する和文誌、および英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、表彰論文の推薦を実施した。

- ・ 表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文 17 編（和文 9 編・英文 8 編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文 8 編（和文 5 編・英文 3 編）を審査リストとして作成した。
- ・ 2020 年 8 月 21 日に、全代議員、役員 313 名にメールにて採点を依頼した。
- ・ 10 月 9 日までに返信された 205 件について評価点の集計を行った。回収率 65.5%(205/313)。集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞 2 編、奨励賞 1 編を決定し、理事会に報告し承認を得た。

【優秀賞】

- ◆ Quality-of-life predictors for men undergoing infertility treatment in Japan
Kyoko Asazawa, Mina Jitsuzaki, Akiko Mori, Tomohiko Ichikawa, Katsuko Shinozaki
Japan Journal of Nursing Science (2019) Volume16, Issue3, pages 329-341
- ◆ Comparison of wiping and rising techniques after oral care procedures in critically ill patients during endotracheal intubation and after extubation: A prospective cross-over trial.
Keita Muramatsu
Japan Journal of Nursing Science (2019) Volume16, Issue1, pages 80-87)

【奨励賞】

- ◆ 生体肝移植後の高齢レシピエントの自己管理行動の現状と自己管理行動に影響する要因
堀部 光宏, 赤澤 千春
日本看護科学会誌 2019 年 39 巻 p147-156

② 他組織からの表彰候補者の推薦

山上の光賞、日本学術振興会（育志賞含む）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、推薦を行った。

- ・ 山上の光賞について：日本看護協会が看護関連団体からの推薦を取りまとめて推薦した本会名誉会員でもある川村佐和子先生が、第 6 回山上の光賞を受賞された。本会も日本看護協会に賛同し推薦団体の 1 つとして推薦書を作成し提出した。
- ・ ヘルシー・ソサエティ賞について：本会からも推薦した真田弘美先生が、第 16 回ヘルシー・ソサエティ賞（パイオニア部門）を受賞された。

③ 学術集会演題表彰制度の検討

第 41 回学術集会から適用する演題表彰制度について、定款施行細則改定案と、規程案の作成を行い、授与する賞の種類、選考方法、選考フローなどの事項を検討した。

- ・ 賞は「優秀演題発表賞」「優秀ポスター発表賞」「若手優秀演題発表賞」「優秀抄録賞」とし、選考は 2 段階で行う方法とした。第 1 段階では、演題抄録を登録する際に使用するシステムを利用して、査読者 2 名以上による採点を行い、上位 10 名を選考する。第 2 段階では、学術集会当日の発表について、表彰論文選考委員会で主に採点をして最終選考し、表彰する方法とした。
- ・ 演題登録システムに関して 3 社から企画提案と見積書を収集し、その中から 1 社を選定した。また、表彰状、副賞についての具体的な検討を行い、表彰式の開催タイミングは閉会式とすることとし、第 41 回学術集会から適用することが合意された。

委員会開催：2 回（2020 年 8 月 7 日～20 日、8 月 31 日～10 月 26 日）オンライン、そのほかメールでの審議を随時行った。

(6) 研究・学術推進委員会（深堀浩樹理事）

看護学の専門分野横断的研究、学際的研究、国際的研究の推進を目的に国内外の看護学研究に関する情報の収集・整理・発信を行う。また研究者ネットワーク構築の仕組みづくりと看護学研究者の研究能力向上のための事業を実施。

① 委員会としての活動

- ・「大型研究費の獲得を目指した支援」に関する活動を開始した。
- ・日本学術振興会の「学術変革領域研究（A）」の令和3(2021)年度における申請において領域代表者となる意思のある人の募集を行った（募集期間：2020年3月13日から5月7日）。3件の応募があり1件を採択した。
- ・領域代表者と本委員会で協議を行い、「『生きにくさ』を解決しその意味を変容させる Meaning Based Healthcare 学の創出」のテーマで、「学術変革領域研究（A）」の令和3(2021)年度の公募に挑戦する方針とした。この研究計画による公募に「計画研究代表者」として参加を希望する人を募集した（募集期間：2020年9月16日から10月9日）。27件の応募があり12件を採択した。これらに加えて、4件を採択された計画研究と類似点があり、統合を打診する対象として選定した。
- ・領域代表者、研究・学術推進委員会 委員、計画研究代表者での検討を経て2021年1月25日に、領域代表者が令和3(2021)年度 学術変革領域研究(A)「人々が抱える生きにくさの解放的変容を可能にする意味立脚型医療学（領域略称名：生きにくさの変容）」の領域計画書を日本学術振興会に提出するに至った。この領域は12件の計画研究から構成され、計画研究代表者のうち45歳以下の研究者は5（42%）名で、この領域に研究代表者・分担研究者として関与する研究者の合計人数は78名で、若手研究者を含んだ大規模な研究組織を構築できた。申請時点における5年間での研究経費の総額は1,420,930千円（計画研究分1,194,930千円、公募研究分226,000千円）であった。
- ・「大型研究費の獲得を目指した支援」に関する活動に関する申し合わせ事項を作成し理事会の承認を得た。

② JANS セミナーの開催

- ・第16回 JANS セミナー「若手からシニアまで、看護学研究者全員で挑むイノベーション：大型研究マネジメントと研究費の継続的獲得のヒントを学ぼう」を Web 開催した（2020年7月6日～10月2日）。参加人数は、437名（会員限定）であった。
- ・第18回 JANS セミナーについての検討を行った。

③ 第40回学術集会での交流集会の企画

- ・第40回学術集会の交流集会において「看護学研究者がよりインパクトのある大規模な研究に挑戦していくために」を開催した（2020年12月12日9:00～9:20、Zoom・LIVE配信）。

委員会開催：8回（2020年4月21日、5月15日、6月17日、7月12日、9月6日、10月10日、12月7日、2021年2月10日）オンライン

(7) 看護ケア開発・標準化委員会（須釜淳子副理事長）

研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することで Nursing Science の構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組みづくりを目指す。

① モデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014 に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標とする

- ・2020年1月パネル会議メンバーを決定し、3月に推奨文草案に関するレビューを実施した。
- ・2020年4月11日にパネル会議をZoomによるオンラインで開催した。ガイドライン作成メンバーで草案修正を2020年11月末までに実施した。
- ・2021年1月11日 統括委員会実施、その後、公開に向け最終調整を始めた。
- ・2021年2月1日～15日 外部評価、2月4日～15日 JANS 会員からのパブリックコメント募集した。
- ・出版社（南江堂）の理事会承認を得て完成、学会誌（英文誌、和文誌）への投稿準備をしている。

② 新たなケアガイドライン作成グループを設立し、活動を支援する

- ・2020年8月1日（土）13時～15時 ZoomによるオンラインでSR講習会を新規ガイドライン作成グループメンバー向けに行った。

講師：大田えりか先生

1) 「下部消化管術後患者の長期的排便障害のケアガイドライン構築のためのアセスメントガイドライン」佐藤正美代表（東京慈恵会医科大学）

- ・2021年2月26日17:30-20:00までグループ会議（オンラインZoom）があり、現状の進捗と今後の進め方の調整した。
- ・2021年3月5日 看護ケア開発標準化委員会委員長とグループ代表、総括メンバーとで進捗確認を行った（オンラインZoom）。
- ・4つのCQにそってレビューを実施し、結果を整理している。

2) 「高齢者排尿誘導ガイドライン」佐藤和佳子代表（山形大学）

- ・2021年1月28日看護ケア開発標準化委員会委員長とグループ代表、メンバーとで進捗確認を行った（オンラインZoom）。
- ・2021年3月22日 看護ケア開発標準化委員会委員長とグループ代表、メンバーとで進捗確認を行った（オンラインZoom）。

③ 活動状況の公開

- ・日本看護系学会協議会ワークショップ11月29日 オンライン
「看護ケアのガイドライン作成・活用に向けて」
ワークショップへ話題提供者として登壇し、ガイドラインの作成取り組みについて発表した。
- ・第40回学術集会 シンポジウム6 12月13日 オンライン
「看護行為の開発ならびに標準化のプロセス 学会主導看護ケアガイドライン作成プロジェクトの紹介」

委員会開催：1回（2021年1月11日）オンライン

ガイドライングループ調整会議：3回（1月28日、3月5、22日）オンライン

ガイドライン事務局会議：9回（2021年1月8、28、29日、2月10、17、26日、3月2、13日）
オンライン

(8) 若手研究者活動推進委員会（仲上豪二郎理事）

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

① 委員会としての活動

- ・ JANS 若手の会ホームページでの情報発信を行った。当委員会の企画について、事前予告に加え、当日の概要に関する事後報告も行った。
- ・ JANS 若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は 2021 年 3 月現在で計 821 名であり増加中である。当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動の投稿が行われた。
- ・ 日本学術会議若手アカデミーからの情報の発信をした。
- ・ 第 40 回学術集会での英語シンポジウム「Next-generation knowledge development approach through team science」を企画し開催した（2020 年 12 月 13 日 10：00～10：50、Zoom・LIVE 配信）。
- ・ 第 40 回学術集会での若手ネットワークサロンを JANS40 ホームページ上に特設ページを設け実施した。

② JANS セミナーの開催

- ・ 第 17 回 JANS セミナー「看護学研究の社会実装：インプリメンテーション研究とデータサイエンスの潮流」（オンデマンド配信）を開始した（2021 年 3 月 22 日～5 月 31 日まで受講可能）。受講者数は 2021 年 3 月 31 日現在で 270 名であった（会員 253 名・非会員 16 名・学部学生 1 名）。なお、5 月 31 日時点で申込み 548 名（学部学生 3 名）であった。

③ COVID-19 が JANS 会員の教育・研究活動に与えた影響の調査

- ・ COVID-19 看護研究等対策委員会へ本委員会から委員を 3 名選出し、調査を実施した。詳細は COVID-19 看護研究等対策委員会の活動報告に記載。また、会員からの要望の多かった調査データのオープンソース化に向け、まずは共同研究者として参画する枠組みを検討した。

④ エリア検討会開催支援

- ・ JANS 若手の会 エリア・コーディネーターが主体で企画・運営するエリア検討会の開催支援を行った。2020 年度に開催されたエリア検討会は、中四国エリア検討会（2021 年 3 月 6 日）、北関東エリア検討会（2021 年 3 月 13 日）、関西エリア検討会（2021 年 3 月 6 日）であった。それぞれの開催報告を JANS 若手の会ホームページ上に掲載した。

委員会開催：1 回（2020 年 11 月 2 日）オンライン

その他、COVID-19 看護研究等対策委員会、看護ケア開発・標準化委員会の会議への参画、第 17 回 JANS セミナー開催打ち合わせをメール、ウェブ会議システムを用いて担当者レベルで随時実施した。

(9) 国際活動推進委員会*世界看護科学学会を含む（池田真理理事）

国際学会での優れた日本の研究成果を発信していくことを目的にセミナー・支援策を企画する。また、国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を目指す。

世界看護科学学会(World Academy of Nursing Science: WANS)の理事長が JANS 会員であることか

ら、当委員会は WANS 事務局運営を担当する（ホームページ維持管理含む）。

① 委員会としての活動

- ・国際活動推進委員会を4回（2020年6月9日、10月16日、11月27日、2021年4月1日）オンラインで開催した。

② 委員会企画シンポジウム

- ・第40回学術集会の英語セッションでの発表を促進するための委員会企画セミナー「国際学会オーラルプレゼンテーションへの第一歩」を2020年4月19日に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策のために中止した。申込数が多かったことから必要性を鑑み、第40回学術集会において委員会企画としてシンポジウムに開催形式を変更し2020年12月13日9:00~9:50、Zoom・LIVE配信で実施した。参加者は150名を超え、参加後のアンケートでは、口演発表に一步踏み出せそうかという問いに対して、「思った」「少し思った」が合計96.4%であった。
- ・第41回学術集会では、国外の研究活動経験者からの講演、交流、ネットワーキングを交流集会で企画することで登録予定である。

③ 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）

- ・世界看護科学学会（WANS）事務局業務を引き続き実施した（ホームページ維持管理含む）。
- ・第6回WANS学術集会は昨今の新型コロナウイルス感染予防対策のために、現地開催は中止となった。しかしWeb上で抄録が公開されていることから、学術集会は開催されたことが理事会で認められた。事務局として任期終了となった理事長の選出についての業務を行い、2020年6月にJANSから推薦した片田理事長が再選された。
- ・WANS第6回学術集会会期中に行う予定であったWANS理事会については、議題を整理し、11月5日にZoom会議にて実施した。現在WANSメンバー組織は日本の学会が9団体、海外の団体が8団体である。WANSの将来構想を考えるAd-hoc委員会が設置され2021年1月に開催された。Ad-hoc委員会では、片田理事長をはじめ、日本の3団体3名（Japan Society of Disaster Nursing、Japanese Society of Child Health Nursing、Japan Academy of Nursing Science）と海外の2団体3名（Thailand Nursing and Midwifery Council、Asian American Pacific Islander Nurses Association）合計7名の代表によって今後の活動方針の検討を行った。Ad-hoc委員会の提案は2月15日のWANS理事会で報告された。2021年末に片田理事長の任期が終了するため、11月に選挙を実施する予定で準備を進めているところである。

④ 異文化看護データベース

- ・異文化データベースの維持・更新の方法について検討した。現在、国際活動推進委員を通してのデータ収集のみを行っており対象国が限定されるため、公募について検討したが、情報の全体性、厳密性においてリスクが大きいと考え断念した。引き続き国際活動推進委員が中心となってデータ更新を進めることとした。シンガポールとパキスタンについて、データを更新中である。

(10) 看護学学術用語検討委員会（安酸史子理事）

看護が扱う専門用語の概念的統一を図り、看護用語に関する現状と展望や維持管理のシステム構築についての検討を実施。

看護用語の新たな定義を検討するため以下の委員会活動を行った。

① 5月2日（オンライン会議）

- ・セルフケア定義案について検討。委員会としては「ケア」「セルフケア」「セルフケア支援」と概念を分け、看護との絡みで明確な定義づけを行う方向で検討した。
- ・第二段階のクリティークのために臨床の看護職者からヒアリングを行うことが決まった。
- ・コロナ禍なので、専門家へのヒアリングは、Zoomでのフォーカスグループインタビューで進めることになった。

② 7月12日（オンライン会議）

- ・研究倫理審査申請にあたり、ヒアリングの対象者及び人数、ヒアリングの進め方について具体的に話し合った。

③ 7月28日（倫理審査申請）

- ・メール会議を経て7月28日に関西医科大学研究倫理委員会に申請し、最終的に9月11日に倫理審査を通った。

④ フォーカスグループインタビュー対象者の選定

- ・メール会議で、フォーカスグループインタビューの対象者の選定を行い、救急、急性期、回復期、慢性期、精神、母性、小児、老年、在宅、地域の各領域から看護師、保健師、助産師、養護教諭等を1～2名ずつ選定し、内諾を得て、10月25日ではほぼ確定した。

⑤ 12月18日（オンライン会議）

- ・Zoomでのフォーカスグループインタビュー調査についての意見交換。
- ・対象者に依頼文送付、日程調整、同意書を送付した。

⑥ 1月8日（オンライン会議）

- ・Zoomでのフォーカスグループインタビュー調査の詳細について検討した。

⑦ フォーカスグループインタビューの実施

- ・1月19日（Zoomによるフォーカスグループインタビュー2G実施）
- ・1月22日（Zoomによるフォーカスグループインタビュー1G実施）

対象者13名：女性10名、男性3名 平均実務年数22.5年

救急2名、回復期1名、精神2名、小児1名、母性・助産1名、老年2名

急性期1名、慢性期1名、在宅1名、管理1名

⑧ 3月15日（オンライン会議）

- ・3Gの逐語録をもとに今後の分析方法についての意見交換をした。
- ・作業分担を決定し、その結果を4月以降に持ち寄って調整予定である。

今後、フォーカスグループインタビュー結果をもとに、「セルフケア」の新しい定義案を作成し、今年度の学術集会の交流集会で公表、論文化を予定している。「セルフケア」概念の定義の再検討を行った一連の取り組みをもとに学術用語の継続的な維持管理システムの構築方法についてまとめる。

委員会開催：5回（2020年5月2日、7月12日、12月18日、2021年1月8日、3月15日）

オンライン

(11) 社会貢献委員会（鈴木みずえ理事）

一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民フォーラム」や次世代の看護学研究者育成となる「ナーシング・サイエンス・カフェ」を実施。

① JANS40 において市民公開講座を開催

- ・ JANS40 において、市民公開講座「私の仕事（作家 浅田次郎氏）」をオンデマンド配信で開催した（2020年12月1日～25日）。申込者数：1,367名、動画再生回数：933回であった。
- ・ アンケート（317名）からは講師に興味があり参加8割、役に立った9割と良好な評価であった。

② JANS41 での市民公開講座の準備

- ・ JANS41 での市民公開講座の準備を進めている。
日時：12月5日（日）学会2日目（14：30～16：30まで市民公開講座として予約）
- ・ 「名古屋国際会議場における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」が提示されており、遵守する。（Webに変更）
- ・ 演者：愛知県立大学 看護学部 教授：清水宣明氏
- ・ 講演内容：after コロナ、with コロナ、ニューノーマルなど、今後の COVID-19 の感染状況、対策、科学的根拠に基づく感染予防対策の市民生活について、若しくは南海トラフへの備え（今後の状況で決定する）。

③ JANS42 の「市民公開講座」等について

- ・ 講師の選定やナーシングサイエンスカフェ（NSC）の開催について、併せて検討する。

委員会開催：4回（2020年5月13日、7月29日、9月29日、2021年2月12日）オンライン

(12) 広報委員会（田中マキ子理事）

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布）、当日の記録の保存、学会ホームページの定期的な更新や維持管理等を実施。

① ホームページの更新

- ・ 本会公式ウェブサイトであるホームページの内容の更新と整理を事務所と協力のうえ定期的に行った。

② 第40回学術集会において交流集会を開催

- ・ 交流集会「あなたの研究に「看護研究の玉手箱」を使ったことがありますか？」を開催した（2020年12月12日、9：00～9：20、Zoom・LIVE配信）。

③ 学術集会等の広報活動

- ・ 第40回学術集会の様子をスクリーンショットにおさめ、記録として本会ホームページに掲載した。

④ 委員会成果物の公表

- ・ JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、2020年度表彰論文の追加掲載を行った。

⑤ 英語版ホームページのリニューアル

- ・ 英語版ホームページのリニューアル作業を進めている。

委員会開催：4回（2020年6月2日、10月29日、12月27日、2021年3月8日）メール・オンライン

(13) 看護倫理検討委員会（樋之津淳子理事）

看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施する。

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。
- ・9月11日に報告された「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」の自由記述欄に看護学研究が関連する倫理的社会的社会事象に関連していると思われる記述の有無について確認した。COVID-19による様々な制限・制約、混乱・混迷のなかで教育・研究活動に取り組まれている様子がかがわれ、倫理的課題というより、責務遂行が困難な現状において問題を生じさせないようにしている倫理的葛藤の状態にあることが推測された。

委員会開催：3回（2020年9月27日、10月7日、12月25日）メール

(14) 利益相反委員会（鈴木みずえ理事）

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大なCOI状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

- ・和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・第40回学術集会会長、各講演者および学術集会演題登録時の利益相反申告を実施した。
- ・セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。
- ・学術活動の利益相反に関する本学会の細則等の見直しを行うことを計画した。
- ・JANAの利益相反(COI)検討委員として、鈴木、曾田がCOI検討委員として下記のワークショップに出席し、JANAのCOIガイドラインを検討した。

ワークショップ①：2020年9月26日（土）

10：00～講演会（1時間程度、その後質疑応答）

演者：東京医科歯科大学産学連携研究センター長 飯田香緒里先生

13：00～協働グループでのディスカッション（2時間程度）

ワークショップ②：2020年10月31日（土）

13：00～協働グループでのディスカッション（2時間程度）

- ・利益相反委員会において、同ガイドラインを12月23日にメール審議した。
- ・日本看護科学学会における学術活動の利益相反マネジメント指針・細則との整合性を検討した。

委員会開催：1回（2020年12月23日）メール

(15) 研究倫理審査委員会（岡谷恵子理事）

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

研究倫理審査の実施

- ・2件の申請があり、通常審査を行った。（2021年3月）

委員会開催：通常審査のために Zoom 会議（2021 年 3 月 25 日）と、メール会議を各 1 回行った。

(16) 災害看護支援委員会（永田智子理事）

看護系学会と連携し情報収集や災害時の活動について検討している。

- ・災害発生時には、緊急に拡大災害支援対策委員会を組織し、災害に対応していくこととしている。今期は該当なし。
- ・日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討することとしている。今期は該当なし。
- ・第 40 回日本看護科学学会学術集会にて、交流集会「COVID-19 の経験を次の健康危機に活かす：看護のエビデンス構築に向けて」を開催した（12 月 12 日 11:00 ～ 11:20 Zoom・LIVE 配信）。

委員会開催：1 回（2020 年 5 月 16 日）オンライン

(17) 若手研究者助成選考準備委員会（鈴木みずえ理事）

2021 年 4 月からの若手研究者助成を目指し以下の活動を行った。

- ・2021 年度からの実施を計画し、準備委員会を立ち上げた。
- ・新たな事業となるため、規程類の作成を行い、「若手研究者助成規程」「若手研究者助成選考細則」「若手研究者助成選考申し合わせ」「若手研究者助成資金細則」の設置を進めた。
- ・事業の実施には内閣府の公益認定等委員会に「変更認定」を申請し承認を得る必要があり、11 月 6 日の第 4 回理事会でこの「変更認定」の承認を得て申請書の作成を進めた。通常、認定までには約 3 ヶ月程度かかることが予想されており、2020 年 12 月 23 日に電子申請を行い、2021 年 3 月 31 日に本件に関する認定書が届いた。なお、審査期間には 8 回に渡って質問が届き、理事長確認のうえ委員長と副委員長が一つひとつ真摯に回答するなど対応したこともあり、結果として予定通り認定された。

委員会開催（委員長、副委員長と事務所による打合せ（Zoom）等を含む）：8 回

（2020 年 4 月 26 日、5 月 22 日、7 月 9、28 日、9 月 29 日、11 月 5 日、2021 年 1 月 21 日、3 月 10 日）オンライン

(18) 会則等委員会（石橋みゆき理事）2020 年 6 月新設

本委員会は、定款や各種規程等の見直しを通して公益社団法人として継続的かつ発展的な学会運営を行うため 2020 年 6 月に設置された委員会である。

委員会開催回数：2 回（2020 年 10 月 5 日、21 日）オンライン

① 新規事業開始、規程類の改正に伴う定款の改正事項の点検及び改正内容の検討

- ・若手研究者の育成及び支援に関する新規事業を定款へ反映した。
- ・正会員に関する記載について、下位の会則変更の内容が定款に及ぼす影響を検討し、改正の必要性をの検討した。

② 定款の見直しに伴う下位規則等の見直しの必要性の検討

(19) COVID-19 看護研究等対策委員会（須釜淳子副理事長）2020年6月新設

本委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活が一変した社会において公益社団法人日本看護科学学会の定款第2条に定める「看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献する」に基づき、この COVID-19 の状況下で何ができるのかを実践するために時限的（2～3年）な活動をすることで理事会承認により設置された。

- ・日本看護科学学会の会員を対象に緊急事態宣言期間中の活動に関するアンケート調査をオンラインで行った（7月1日～8月1日）。
- ・上記調査結果を学会ホームページに速報として公開した（9月11日）。
- ・社員総会（12月11日）ならびに第40回学会総会（12月12日）にて報告した。いずれも Web 開催とした。
- ・会員調査結果を報告書（日本語版、英語版）としてまとめ、学会 HP 上で公開した（2021年3月）。
- ・調査報告結果を解析し、海外専門学術誌に投稿した。
- ・本調査で得られたデータを会員が有効活用できる方法を検討し、分析から論文執筆までを行う研究者又はグループを公募し（11月13日～30日）、理事会の承認を得て、指定課題が2件、自由課題型4件を採択した。

委員会開催回数：2回（2020年12月7日、2021年1月9日）オンライン

(20) 総務委員会（永田智子理事）

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施した。（会員数等については、総務報告を参照）

① 入会審査、会員管理の実施

- ・入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。

② 学会事務所の運営

- ・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。
- ・事務所職員と緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員面談を実施し、業務遂行状況の把握をした。特に COVID-19 対策について、在宅勤務の併用、事務所内での感染対策等が円滑に実施できるよう支援した。
- ・理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。

(21) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会（JANA）（石橋みゆき理事）

- ・2020年度社員総会は、COVID-19の感染拡大を防ぐため開催形式を変更して開催された。
- ・2020年6月7日（日）に、書面総会資料を踏まえての各社員学会との意見交換会に出席した（Web開催）。
- ・2020年度社員総会に書面議決書で出席した（2020年6月21日（日）開催）。

議案：2019年度決算報告、2019年度会計監査報告、2020年度役員選挙（選挙管理委員）

- ・ 2021-2022 年度役員選挙（推薦、投票）に参加した。
- ・ 医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、13名の会員を個別調査部会員に推薦した。この協力については2016年度から行っており、計35名の会員を推薦してきた。併せて毎年開催の協力学会説明会にも参加した。（2021年3月17日 Webにて）
- ・ その他、JANA から提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）（永田智子理事）

- ・ 看保連 2021 年度研究助成への応募について、申請があった4件を審査し、1件を承認した。

③ 日本学術会議（石橋みゆき理事）

- ・ 日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。
- ・ 日本看護科学学会として会員候補者6名の情報提供を行った。

④ その他の機関（石橋みゆき理事）

- ・ 対応すべき事案はなかった。

(22) 選挙管理委員会（青木きよ子委員長）

- ・ 2020年9月28日第1回選挙管理委員会を開催した。
理事候補者選挙準備
(選挙日程決定、公示文書作成、選挙人・被選挙人確認、Web 選挙システム投票要領作成)
電子投票受付期間：2021年2月1日（月）正午～28日（日）23：59
- ・ 2021年3月1日第2回選挙管理委員会を開催した。
理事候補者選挙開票
開票：2021年3月1日（月）午後3時より
開票後、当選した理事候補者に当選通知を発送した。

理事選任案

現理事任期満了(2021年6月13日)による新理事の選任について

	氏名	所属
1	池田真理	東京女子医科大学
2	石橋みゆき	千葉大学大学院
3	井上智子	国立看護大学校
4	江藤宏美	長崎大学
5	大久保暢子	聖路加国際大学
6	亀井智子	聖路加国際大学
7	近藤暁子	東京医科歯科大学
8	須釜淳子	藤田医科大学
9	手島恵	千葉大学大学院
10	仲上豪二郎	東京大学大学院
11	中村幸代	横浜市立大学
12	深堀浩樹	慶応義塾大学
13	法橋尚宏	神戸大学
14	堀内成子	聖路加国際大学
15	宮下光令	東北大学

(以上15名、五十音順)

貸借対照表
2021年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	174,510,279	168,896,161	5,614,118
未収会費	2,370,000	2,380,000	△ 10,000
未収金	723,044	576,562	146,482
たな卸資産	27,000	27,000	0
前払費用	5,851,571	5,702,508	149,063
仮払金	0	2,166	△ 2,166
流動資産合計	183,481,894	177,584,397	5,897,497
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
選挙積立預金	3,040,593	2,092,767	947,826
退職給付引当資産	6,370,100	4,956,000	1,414,100
寄付積立資産	0	90,000	△ 90,000
若手研究者助成資金	30,000,000	0	30,000,000
特定資産合計	39,410,693	7,138,767	32,271,926
(3) その他固定資産			
什器備品	49,523	71,373	△ 21,850
リース資産	526,176	1,052,352	△ 526,176
電話加入権	72,030	72,030	0
保証金	1,400,000	1,400,000	0
長期前払費用	0	110,000	△ 110,000
その他固定資産合計	2,047,729	2,705,755	△ 658,026
固定資産合計	41,458,422	9,844,522	31,613,900
資産合計	224,940,316	187,428,919	37,511,397
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	6,066,949	4,324,826	1,742,123
未払法人税等	76,000	77,900	△ 1,900
未払消費税等	577,500	705,600	△ 128,100
前受会費	19,710,000	19,410,000	300,000
前受金	0	528,000	△ 528,000
預り金	183,179	118,462	64,717
仮受金	10,000	67,000	△ 57,000
短期リース債務	526,176	526,176	0
流動負債合計	27,149,804	25,757,964	1,391,840
2. 固定負債			
長期リース債務	0	526,176	△ 526,176
退職給付引当金	6,370,100	4,956,000	1,414,100
固定負債合計	6,370,100	5,482,176	887,924
負債合計	33,519,904	31,240,140	2,279,764
III 正味財産の部			
1. 基金			
基金	72,926,624	72,926,624	0
2. 指定正味財産			
寄付金	0	90,000	△ 90,000
指定正味財産合計	0	90,000	△ 90,000
(うち特定資産への充当額)	(0)	(90,000)	(△ 90,000)
3. 一般正味財産			
(1) 代替基金	0	0	0
(2) その他一般正味財産	118,493,788	83,172,155	35,321,633
一般正味財産合計	118,493,788	83,172,155	35,321,633
(うち特定資産への充当額)	(33,040,593)	(2,092,767)	(30,947,826)
正味財産合計	191,420,412	156,188,779	35,231,633
負債及び正味財産合計	224,940,316	187,428,919	37,511,397

貸借対照表内訳表
2021年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	44,452,865	0	130,057,414	0	174,510,279
未収会費	0	0	2,370,000	0	2,370,000
未収金	713,044	0	10,000	0	723,044
たな卸資産	27,000	0	0	0	27,000
前払費用	5,321,271	0	530,300	0	5,851,571
他会計短期貸付金	0	0	113,144,323	△ 113,144,323	0
流動資産合計	50,514,180	0	246,112,037	△ 113,144,323	183,481,894
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産合計	0	0	0	0	0
(2) 特定資産					
選挙積立預金	0	0	3,040,593	0	3,040,593
退職給付引当資産	0	0	6,370,100	0	6,370,100
若手研究者助成資金	30,000,000	0	0	0	30,000,000
特定資産合計	30,000,000	0	9,410,693	0	39,410,693
(3) その他固定資産					
什器備品	18,173	801	30,549	0	49,523
リース資産	311,772	8,620	205,784	0	526,176
電話加入権	0	0	72,030	0	72,030
保証金	0	0	1,400,000	0	1,400,000
その他固定資産合計	329,945	9,421	1,708,363	0	2,047,729
固定資産合計	30,329,945	9,421	11,119,056	0	41,458,422
資産合計	80,844,125	9,421	257,231,093	△ 113,144,323	224,940,316
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払費用	5,631,509	0	435,440	0	6,066,949
未払法人税等	0	76,000	0	0	76,000
未払消費税等	421,171	156,329	0	0	577,500
前受会費	200,000	0	19,510,000	0	19,710,000
預り金	0	0	183,179	0	183,179
仮受金	0	0	10,000	0	10,000
短期リース債務	311,772	8,620	205,784	0	526,176
他会計短期借入金	109,573,699	3,570,624	0	△ 113,144,323	0
流動負債合計	116,138,151	3,811,573	20,344,403	△ 113,144,323	27,149,804
2. 固定負債					
退職給付引当金	0	0	6,370,100	0	6,370,100
固定負債合計	0	0	6,370,100	0	6,370,100
負債合計	116,138,151	3,811,573	26,714,503	△ 113,144,323	33,519,904
III 正味財産の部					
1. 基金					
基金	0	0	72,926,624	0	72,926,624
2. 指定正味財産					
3. 一般正味財産					
(1) 代替基金	0	0	0	0	0
(2) その他一般正味財産	△ 35,294,026	△ 3,802,152	157,589,966	0	118,493,788
一般正味財産合計	△ 35,294,026	△ 3,802,152	157,589,966	0	118,493,788
(うち特定資産への充当額)	(30,000,000)	(0)	(3,040,593)	(0)	(33,040,593)
正味財産合計	△ 35,294,026	△ 3,802,152	230,516,590	0	191,420,412
負債及び正味財産合計	80,844,125	9,421	257,231,093	△ 113,144,323	224,940,316

正味財産増減計算書

2020年 4月 1日 から2021年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	74	55	19
受取会費			
正会員受取会費 (※)	99,300,000	97,540,000	1,760,000
賛助会員受取会費	250,000	300,000	△ 50,000
受取会費計	99,550,000	97,840,000	1,710,000
事業収益			
学会誌収益	627,800	666,660	△ 38,860
著作権料収益	3,270,227	723,394	2,546,833
セミナー収益	2,980,000	1,817,000	1,163,000
学術集会収益	45,027,000	41,841,000	3,186,000
広告販売収益	5,478,000	11,950,800	△ 6,472,800
事業収益計	57,383,027	56,998,854	384,173
受取寄付金			
受取寄付金	30,000	1,530,000	△ 1,500,000
受取助成金	1,067,000	7,620,000	△ 6,553,000
受取寄付金振替額	90,000	100,000	△ 10,000
受取寄付金計	1,187,000	9,250,000	△ 8,063,000
雑収益			
受取利息	5	3	2
懇親会収益	0	949,000	△ 949,000
雑収益計	5	949,003	△ 948,998
経常収益計	158,120,106	165,037,912	△ 6,917,806
(2) 経常費用			
事業費			
期首たな卸高	27,000	27,000	0
和文誌発行費	8,762,044	5,604,194	3,157,850
英文誌発行費	19,820,390	19,446,484	373,906
期末たな卸高	△ 27,000	△ 27,000	0
給料手当	10,803,385	11,492,470	△ 689,085
臨時雇賃金	85,600	575,940	△ 490,340
賞与	1,593,273	1,720,595	△ 127,322
退職給付費用	861,059	515,015	346,044
福利厚生費	2,060,803	1,997,882	62,921
旅費交通費	15,949	4,238,551	△ 4,222,602
通信運搬費	5,064,954	5,061,509	3,445
減価償却費	328,761	328,925	△ 164
消耗品費	2,300,189	2,552,576	△ 252,387
修繕費	0	10,943	△ 10,943
印刷製本費	3,094,950	4,392,862	△ 1,297,912
慶弔費	0	25,112	△ 25,112
光熱水料費	355,118	415,450	△ 60,332
賃借料	2,556,915	2,523,418	33,497
保険料	50,497	50,820	△ 323
諸謝金	2,981,211	1,338,058	1,643,153
租税公課	934,600	680,684	253,916
委託費	32,528,524	15,923,090	16,605,434
会議費	86,223	1,486,328	△ 1,400,105
表彰費	143,980	194,810	△ 50,830
会場費	431,455	32,859,305	△ 32,427,850
通勤手当	852,798	876,592	△ 23,794
雑費	4,245,537	4,071,591	173,946
事業費計	99,958,215	118,383,204	△ 18,424,989

(※) 2020年度正会員9930名分。これは公益法人会計基準に基づく表記方法である。収支計算書の2020年度正会員会費収入9693名分との差は237名分あり、貸借対照表の流動資産の未収会費として表れている。

正味財産増減計算書

2020年 4月 1日 から2021年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
管理費			
給料手当	6,938,805	7,381,388	△ 442,583
賞与	1,023,327	1,105,105	△ 81,778
臨時雇賃金	18,750	27,000	△ 8,250
退職給付費用	553,041	330,785	222,256
福利厚生費	1,323,614	1,283,202	40,412
会議費	1,001,369	6,998,239	△ 5,996,870
渉外費	8,640	8,640	0
旅費交通費	6,135	282,044	△ 275,909
通信運搬費	795,628	818,928	△ 23,300
減価償却費	219,265	219,522	△ 257
通勤手当	547,736	563,018	△ 15,282
消耗品費	817,535	372,614	444,921
修繕費	0	7,027	△ 7,027
印刷製本費	31,877	16,472	15,405
慶弔費	0	16,128	△ 16,128
光熱水料費	228,084	266,836	△ 38,752
賃借料	1,642,255	1,620,741	21,514
保険料	32,434	32,640	△ 206
租税公課	20,800	28,585	△ 7,785
支払負担金	430,000	430,000	0
委託費	4,115,807	3,682,077	433,730
資格喪失者会費	2,200,000	2,360,000	△ 160,000
懇親会費	0	1,695,925	△ 1,695,925
雑費	809,156	927,520	△ 118,364
管理費計	22,764,258	30,474,436	△ 7,710,178
経常費用計	122,722,473	148,857,640	△ 26,135,167
評価損益等調整前当期経常増減額	35,397,633	16,180,272	19,217,361
当期経常増減額	35,397,633	16,180,272	19,217,361
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損			
什器備品除却損	0	1	△ 1
経常外費用計	0	1	△ 1
当期経常外増減額	0	△ 1	1
税引前当期一般正味財産増減額	35,397,633	16,180,271	19,217,362
法人税、住民税及び事業税	76,000	77,900	△ 1,900
当期一般正味財産増減額	35,321,633	16,102,371	19,219,262
一般正味財産期首残高	83,172,155	67,069,784	16,102,371
一般正味財産期末残高	118,493,788	83,172,155	35,321,633
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金			
受取寄付金	0	90,000	△ 90,000
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 90,000	△ 100,000	10,000
当期指定正味財産増減額	△ 90,000	△ 10,000	△ 80,000
指定正味財産期首残高	90,000	100,000	△ 10,000
指定正味財産期末残高	0	90,000	△ 90,000
III 基金増減の部			
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	72,926,624	72,926,624	0
基金期末残高	72,926,624	72,926,624	0
IV 正味財産期末残高	191,420,412	156,188,779	35,231,633

正味財産増減計算書内訳表
2020年 4月 1日 から2021年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計			法人会計	合計
	学術振興事業	学会誌事業	学術集会事業	市民講座等事業	災害看護支援事業	共通	小計	広告販売事業	連携事業	小計		
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
特定資産運用益												
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74	74
受取会費												
正会員受取会費	0	0	0	0	0	49,650,000	49,650,000	0	0	0	49,650,000	99,300,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	250,000	250,000	0	0	0	0	250,000
受取会費計	0	0	0	0	0	49,900,000	49,900,000	0	0	0	49,650,000	99,550,000
事業収益												
学会誌収益	0	627,800	0	0	0	0	627,800	0	0	0	0	627,800
著作権料収益	0	3,270,227	0	0	0	0	3,270,227	0	0	0	0	3,270,227
セミナー収益	1,898,000	1,082,000	0	0	0	0	2,980,000	0	0	0	0	2,980,000
学術集会収益	0	0	45,027,000	0	0	0	45,027,000	0	0	0	0	45,027,000
広告販売収益	0	0	0	0	0	0	0	5,478,000	0	5,478,000	0	5,478,000
事業収益計	1,898,000	4,980,027	45,027,000	0	0	0	51,905,027	5,478,000	0	5,478,000	0	57,383,027
受取寄付金												
受取寄付金	0	0	30,000	0	0	0	30,000	0	0	0	0	30,000
受取助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,067,000	1,067,000
受取寄付金振替額	0	0	90,000	0	0	0	90,000	0	0	0	0	90,000
受取寄付金計	0	0	120,000	0	0	0	120,000	0	0	0	1,067,000	1,187,000
雑収益												
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
経常収益計	1,898,000	4,980,027	45,147,000	0	0	49,900,000	101,925,027	5,478,000	0	5,478,000	50,717,079	158,120,106
(2) 経常費用												
事業費												
期首たな卸高	0	27,000	0	0	0	0	27,000	0	0	0	0	27,000
和文誌発行費	0	8,762,044	0	0	0	0	8,762,044	0	0	0	0	8,762,044
英文誌発行費	0	19,820,390	0	0	0	0	19,820,390	0	0	0	0	19,820,390
期末たな卸高	0	△ 27,000	0	0	0	0	△ 27,000	0	0	0	0	△ 27,000
給料手当	4,416,924	1,698,817	4,178,908	218,030	0	0	10,512,679	145,353	145,353	290,706	0	10,803,385
臨時雇賃金	49,132	0	0	36,468	0	0	85,600	0	0	0	0	85,600
賞与	651,403	250,540	616,301	32,155	0	0	1,550,399	21,437	21,437	42,874	0	1,593,273
退職給付費用	352,041	135,400	333,070	17,378	0	0	837,889	11,585	11,585	23,170	0	861,059
福利厚生費	842,552	324,058	797,149	41,590	0	0	2,005,349	27,727	27,727	55,454	0	2,060,803
旅費交通費	2,740	254	12,664	33	0	0	15,691	236	22	258	0	15,949
通信運搬費	491,671	188,682	4,251,726	33,920	0	0	4,965,999	83,275	15,680	98,955	0	5,064,954
減価償却費	135,098	52,194	125,833	6,663	0	0	319,788	4,439	4,534	8,973	0	328,761
消耗品費	912,854	200,156	1,116,146	25,688	0	0	2,254,844	28,219	17,126	45,345	0	2,300,189
印刷製本費	22,602	7,805	3,015,345	47,862	0	0	3,093,614	668	668	1,336	0	3,094,950
光熱水料費	145,188	55,842	137,365	7,167	0	0	345,562	4,778	4,778	9,556	0	355,118
賃借料	1,045,385	402,071	989,052	51,603	0	0	2,488,111	34,402	34,402	68,804	0	2,556,915
保険料	20,646	7,941	19,533	1,019	0	0	49,139	679	679	1,358	0	50,497
諸謝金	677,014	189,096	1,758,714	356,387	0	0	2,981,211	0	0	0	0	2,981,211
租税公課	87,657	191,408	402,539	0	0	0	681,604	252,996	0	252,996	0	934,600
委託費	2,629,867	1,168,226	28,376,568	279,129	0	0	32,453,790	37,367	37,367	74,734	0	32,528,524
会議費	649	0	83,538	550	0	0	84,737	1,486	0	1,486	0	86,223
表彰費	0	143,980	0	0	0	0	143,980	0	0	0	0	143,980
会場費	0	0	311,461	114,455	0	0	425,916	5,539	0	5,539	0	431,455
通勤手当	348,663	134,101	329,875	17,211	0	0	829,850	11,474	11,474	22,948	0	852,798
雑費	599,246	242,549	3,118,917	250,925	0	0	4,211,637	16,950	16,950	33,900	0	4,245,537
事業費計	13,431,332	33,975,554	49,974,704	1,538,233	0	0	98,919,823	688,610	349,782	1,038,392	0	99,958,215

管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,938,805	6,938,805
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,023,327	1,023,327
賞与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18,750	18,750
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	553,041	553,041
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,323,614	1,323,614
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,001,369	1,001,369
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,640	8,640
渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,135	6,135
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	795,628	795,628
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	219,265	219,265
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	547,736	547,736
通勤手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	817,535	817,535
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31,877	31,877
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	228,084	228,084
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,642,255	1,642,255
貸借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32,434	32,434
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,800	20,800
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	430,000	430,000
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,115,807	4,115,807
委託費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,200,000	2,200,000
資格喪失者会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	809,156	809,156
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,764,258	22,764,258
管理費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,764,258	22,764,258
経常費用計	13,431,332	33,975,554	49,974,704	1,538,233	0	0	98,919,823	688,610	349,782	1,038,392	22,764,258	122,722,473	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 11,533,332	△ 28,995,527	△ 4,827,704	△ 1,538,233	0	49,900,000	3,005,204	4,789,390	△ 349,782	4,439,608	27,952,821	35,397,633	
当期経常増減額	△ 11,533,332	△ 28,995,527	△ 4,827,704	△ 1,538,233	0	49,900,000	3,005,204	4,789,390	△ 349,782	4,439,608	27,952,821	35,397,633	
2. 経常外増減の部													
(1) 経常外収益													
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用													
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 11,533,332	△ 28,995,527	△ 4,827,704	△ 1,538,233	0	49,900,000	3,005,204	4,789,390	△ 349,782	4,439,608	27,952,821	35,397,633	
他会計振替額	0	0	0	0	0	4,632,568	4,632,568	△ 4,632,568	0	△ 4,632,568	0	0	
税引前当期一般正味財産増減額	△ 11,533,332	△ 28,995,527	△ 4,827,704	△ 1,538,233	0	54,532,568	7,637,772	156,822	△ 349,782	△ 192,960	27,952,821	35,397,633	
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0	0	76,000	0	76,000	0	76,000	
当期一般正味財産増減額	△ 11,533,332	△ 28,995,527	△ 4,827,704	△ 1,538,233	0	54,532,568	7,637,772	80,822	△ 349,782	△ 268,960	27,952,821	35,321,633	
一般正味財産期首残高	-	-	-	-	-	-	△ 42,931,798	-	-	△ 3,533,192	129,637,145	83,172,155	
一般正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	△ 35,294,026	-	-	△ 3,802,152	157,589,966	118,493,788	
II 指定正味財産増減の部													
一般正味財産への振替額													
一般正味財産への振替額	0	0	△ 90,000	0	0	0	△ 90,000	0	0	0	0	△ 90,000	
当期指定正味財産増減額	0	0	△ 90,000	0	0	0	△ 90,000	0	0	0	0	△ 90,000	
指定正味財産期首残高	-	-	-	-	-	-	90,000	-	-	0	0	90,000	
指定正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	0	-	-	0	0	0	
III 基金増減の部													
当期基金増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
基金期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	72,926,624	
基金期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	72,926,624	
IV 正味財産期末残高	-	-	-	-	-	-	△ 35,294,026	-	-	△ 3,802,152	230,516,590	191,420,412	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1)当法人は、公益法人会計基準（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。
- (2)たな卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっている。
- (3)固定資産の減価償却の方法
法人税法の規定に基づき次のとおりの償却方法を採用している。
- ①什器備品・・・定率法によっている。
②リース資産・・・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (4)引当金の計上基準
退職給付引当金・・・当期末退職給与の自己都合要支給額に相当する額を計上している。
- (5)消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
選挙積立預金	2,092,767	1,000,026	52,200	3,040,593
退職給付引当資産	4,956,000	1,414,100	0	6,370,100
寄付積立資産	90,000	0	90,000	0
若手研究者助成資金	0	30,000,000	0	30,000,000
合計	7,138,767	32,414,126	142,200	39,410,693

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち基金からの 充当額)	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
特定資産					
選挙積立預金	3,040,593	(0)	(0)	(3,040,593)	(0)
退職給付引当資産	6,370,100	(0)	(0)	(0)	(6,370,100)
若手研究者助成資金	30,000,000	(0)	(0)	(30,000,000)	(0)
合計	39,410,693	(0)	(0)	(33,040,593)	(6,370,100)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	785,230	735,707	49,523
リース資産	3,157,056	2,630,880	526,176

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表の記載
事業継続緊急対策 (テレワーク) 助成金	(公財) 東京しごと財団	-	1,067,000	1,067,000	-	-
合計		-	1,067,000	1,067,000	-	-

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内容	金額
経常収益への振替額	
目的使用による振替額	90,000

7. リース取引関係

所有権移転外ファイナンス・リース取引は次のとおりである。

リース資産の内容

その他固定資産

事務所において利用している印刷機（什器備品）である。

附属明細書

1. 重要な固定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	選挙積立預金	2,092,767	1,000,026	52,200	3,040,593
	退職給付引当資産	4,956,000	1,414,100	0	6,370,100
	寄付積立資産	90,000	0	90,000	0
	若手研究者助成資金	0	30,000,000	0	30,000,000
	特定資産計	7,138,767	32,414,126	142,200	39,410,693
その他固定資産	什器備品	71,373	0	21,850	49,523
	リース資産	1,052,352	0	526,176	526,176
	電話加入権	72,030	0	0	72,030
	保証金	1,400,000	0	0	1,400,000
	長期前払費用	110,000	0	110,000	0
	その他固定資産計	2,705,755	0	658,026	2,047,729

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	4,956,000	1,414,100	0	0	6,370,100

財産目録
2021年 3月 31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元現金 学術集会用小口現金	運転資金として 学術集会運営資金として	211,382 26,024
預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店 三菱UFJ銀行 本郷支店 三菱UFJ銀行 本郷支店 三菱UFJ銀行 守山支店 ゆうちょ銀行 振替口座 ゆうちょ銀行 振替口座	運転資金として 運転資金として 学術集会運営資金として 学術集会運営資金として 運転資金として JANSセミナー運営資金として	100,793,342 25,734,751 43,852,609 469,232 3,317,939 105,000
未収会費	2020年度会費237名分	会員会費未収金	2,370,000
未収金	㈱中西印刷 ㈱メテオ ㈱メタップスペイメント 2020年度会費1名分	2020.4～2021.3月分学会誌印税 2020.4～2021.3月分学会誌著作権料 第17回JANSセミナー参加費 未納退会除外分	382,800 2,244 328,000 10,000
たな卸資産	学会誌・学術講演集在庫	学会誌及び学術講演集	27,000
前払費用	(有)プライムアソシエイツ ウィリアム・ルイス・ホルツマー ㈱杏林舎 (有)富士見ビル (フジミビル) 春日土地㈱ 事務所賃借更新料 2021.4～2021.12月分 AIG損害保険㈱ 弥生㈱ ㈱ライフステージ	JJNS編集事務費2021.4～12月分 JJNS編集長報酬2021.4～6月分 システム利用料2021.4～12月分 事務所賃借料2021.4月分 管理業務の用に供している。 個人情報漏洩保険2021.4～2022.4月分 年間ポータル更新料2021.4～2022.3月分 火災保険料2021.4,5月分	3,795,000 750,000 776,271 293,333 110,000 76,500 49,720 747
流動資産合計			183,481,894
(固定資産)			
特定資産			
選挙積立預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店	選挙のための資産である。	3,040,593
退職給付引当資産	普通預金 三菱UFJ銀行本郷支店	退職金の引当資産である。	6,370,100
若手研究者助成資金	普通預金 三菱UFJ銀行本郷支店	公益目的事業に係る特定費用準備資金であり、若手研究者への助成費用に備えるための資金である。	30,000,000
その他固定資産			
什器備品	東京都文京区本郷3-37-3 オカムラ両開き書庫他3点	共用財産であり、公益目的事業の用に36.7%、収益事業の用に1.6%、管理業務の用に61.7%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	49,523
リース資産	東京都文京区本郷3-37-3 リコーPro C5100SHT	共用財産であり、公益目的事業の用に59.3%、収益事業の用に1.6%、管理業務の用に39.1%供している。公益目的事業の用に供している部分は、公益目的保有財産である。	526,176
電話加入権	東京都文京区本郷3-37-3	管理業務の用に供している。	72,030
保証金	(有)富士見ビル (フジミビル)	管理業務の用に供している。	1,400,000
固定資産合計			41,458,422
資産合計			224,940,316

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)				
	未払費用	中西印刷㈱ ㈱オフィス・テイクワン 日本郵便㈱ ㈱プランニングウィル 厚生労働省年金局 ㈱杏林舎 その他	和文学会誌Vo140(1月～3月)制作費 第41回学術集会運営委託費用 第41回学術集会案内パンフレット他 第17回JANSセミナー運営委託費用 社会保険料(3月分) ホームページ運用管理費用 その他公益目的事業に係るもの1件	2,962,190 1,190,587 1,020,776 462,550 237,174 188,100 5,572
	未払法人税等	本郷税務署 東京都千代田都税事務所	2020年度法人税 2020年度法人都民税・事業税	4,600 71,400
	未払消費税等	本郷税務署	2020年度消費税及び地方消費税	577,500
	前受会費	2021年度会費	2021年度賛助会員50,000円×4口 2021年度正会員10,000円×1,949名 2022年度正会員10,000円×2名	19,710,000
	預り金	事務所員 事務所員 弁護士報酬他3名	給与源泉税2021.1～3月分 住民税3月分 報酬源泉税2021.1～3月分	84,280 55,600 43,299
	仮受金	正会員1名	2021年度会費返金分	10,000
	短期リース債務	日通商事㈱東京支店	2021年度リース料	526,176
流動負債合計				27,149,804
(固定負債)				
	退職給付引当金	事務所員5名分	2021年3月末日要支給額	6,370,100
固定負債合計				6,370,100
負債合計				33,519,904
正味財産				191,420,412

2020年度 収支計算書

2020年 4月 1日 から2021年 3月 31日 まで

(単位：円)

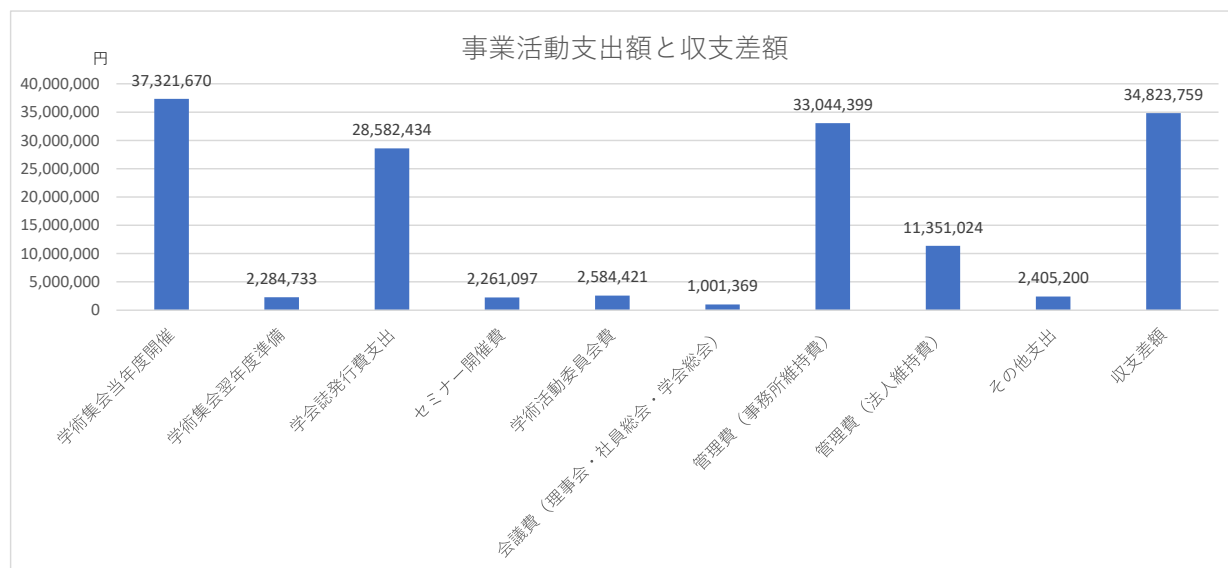
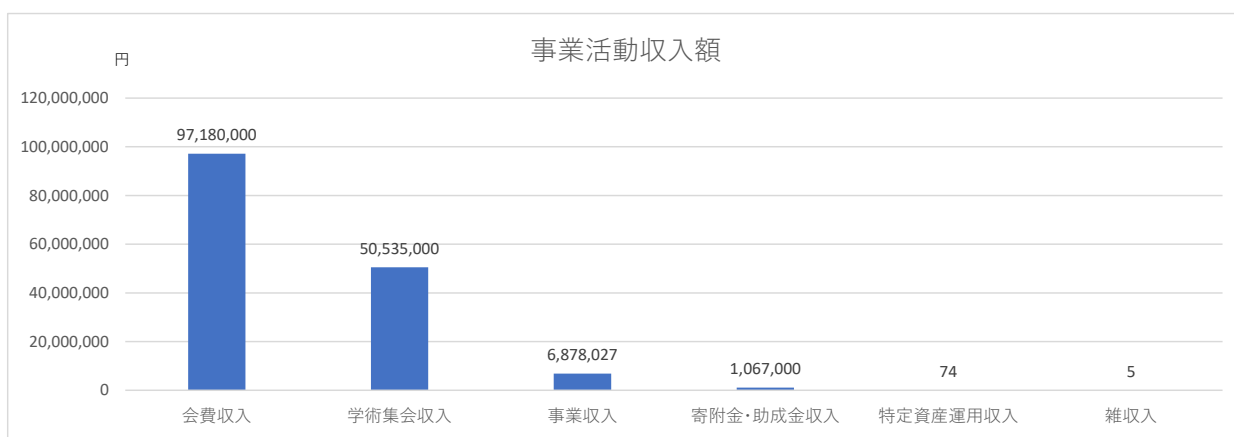
科 目	補足	2020年度 補正予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	2020年度 実績額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	差異	予算執行率 (%)
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
①特定資産運用収入		500	74	426	14.8
特定資産受取利息収入		500	74	426	14.8
②会費収入		101,300,000	97,180,000	4,120,000	95.9
正会員会費収入	※1	101,000,000	96,930,000	4,070,000	96.0
賛助会員会費収入	※2	300,000	250,000	50,000	83.3
③学会誌収入		1,133,000	3,898,027	△ 2,765,027	344.0
学会誌販売収入		429,000	627,800	△ 198,800	146.3
著作権料収入	※3	704,000	3,270,227	△ 2,566,227	464.5
④寄附金・助成金収入(学術集会含まず)	※4	250,000	1,067,000	△ 817,000	426.8
⑤セミナー収入		4,000,000	2,980,000	1,020,000	74.5
JANSセミナー	※5	2,870,000	1,898,000	972,000	66.1
JJNSセミナー	※6	1,130,000	1,082,000	48,000	95.8
⑥雑収入		500	5	495	1.0
受取利息収入		500	5	495	1.0
⑦学術集会収入		38,617,000	50,535,000	△ 11,918,000	130.9
学術集会参加費収入	※7	34,500,000	45,027,000	△ 10,527,000	130.5
事前登録会員(11,000円)		27,500,000	30,063,000	△ 2,563,000	109.3
事前登録非会員(14,000円税込)		7,000,000	5,628,000	1,372,000	80.4
事前登録留学生		0	30,000	△ 30,000	0.0
当日登録会員(13,000円)		0	6,248,000	△ 6,248,000	0.0
当日登録非会員(15,000円税込)		0	3,052,000	△ 3,052,000	0.0
当日登録留学生		0	6,000	△ 6,000	0.0
寄附金・助成金収入	※8	300,000	30,000	270,000	10.0
広告販売収入		3,817,000	5,478,000	△ 1,661,000	143.5
企業展示出展料		660,000	660,000	0	100.0
広告掲載料		1,507,000	2,178,000	△ 671,000	144.5
ランチョンセミナー		1,650,000	2,640,000	△ 990,000	160.0
事業活動収入合計(I a)		145,301,000	155,660,106	△ 10,359,106	107.1
2. 事業活動支出					
①事業費支出		79,659,000	73,034,355	6,624,645	91.7
学会誌発行費支出		25,811,000	28,582,434	△ 2,771,434	110.7
和文誌編集費支出	※9	7,191,000	8,762,044	△ 1,571,044	121.8
英文誌編集費支出	※10	18,620,000	19,820,390	△ 1,200,390	106.4
編集活動費支出		1,555,000	9,161	1,545,839	0.6
和文誌編集委員会費支出	※11	710,000	0	710,000	0.0
英文誌編集委員会費支出	※11	845,000	9,161	835,839	1.1
看護学術振興費支出		7,879,000	1,350,758	6,528,242	17.1
表彰論文選考委員会費支出	※11	221,000	0	221,000	0.0
研究・学術推進委員会費支出	※11	860,000	91,340	768,660	10.6
看護ケア開発・標準化委員会	※11	3,000,000	599,475	2,400,525	20.0
若手研究者活動推進委員会支出	※11	818,000	82,774	735,226	10.1
国際活動推進委員会費支出	※11	1,030,000	120,000	910,000	11.7
看護学術用語検討委員会費支出	※11	815,000	137,328	677,672	16.9
看護倫理検討委員会費支出	※11	535,000	0	535,000	0.0
災害看護支援委員会支出	※11	200,000	22,274	177,726	11.1
COVID-19看護研究等対策委員会費支出	※11	400,000	297,567	102,433	74.4
研究学術活動支援費支出		4,442,000	2,471,899	1,970,101	55.6
受賞論文表彰費支出		193,000	143,980	49,020	74.6
若手研究者助成準備委員会	※11	150,000	0	150,000	0.0
研究倫理審査委員会費		99,000	66,822	32,178	67.5
JANSセミナー開催費	※12	2,870,000	1,299,797	1,570,203	45.3
JJNSセミナー開催費		1,130,000	961,300	168,700	85.1
社会的活動費支出		1,336,000	1,013,700	322,300	75.9
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		651,000	641,892	9,108	98.6
広報委員会費支出(公益目的事業分)	※13	685,000	371,808	313,192	54.3

科 目	補足	2020年度 補正予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	2020年度 実績額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	差異	(単位：円)
学術集会費支出		38,636,000	39,606,403	△ 970,403	102.5
当年度開催学術集会	※14	35,699,000	37,321,670	△ 1,622,670	104.5
会場費支出		500,000	317,000	183,000	63.4
会議費支出		650,000	85,024	564,976	13.1
旅費交通費支出		1,000,000	12,254	987,746	1.2
消耗品費支出		1,000,000	385,408	614,592	38.5
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,600,000	2,732,592	△ 1,132,592	170.8
印刷製本費支出(プログラム印刷含む)		4,000,000	2,536,215	1,463,785	63.4
委託費支出		19,500,000	26,876,862	△ 7,376,862	137.8
人件費支出		1,000,000	0	1,000,000	0.0
謝金支出		2,000,000	1,758,714	241,286	87.9
雑支出		4,449,000	2,617,601	1,831,399	58.8
懇親会運営費支出		0	0	0	0.0
次年度開催学術集会(準備期間)	※15	2,937,000	2,284,733	652,267	77.8
会場費支出		0	0	0	0.0
会議費支出		120,000	0	120,000	0.0
旅費交通費支出		300,000	0	300,000	0.0
消耗品費支出		236,000	249,469	△ 13,469	105.7
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		1,580,000	1,135,926	444,074	71.9
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		301,000	459,932	△ 158,932	152.8
委託費支出		400,000	425,406	△ 25,406	106.4
人件費支出		0	0	0	0.0
謝金支出		0	0	0	0.0
雑支出		0	14,000	△ 14,000	0.0
②管理費支出		61,577,000	45,525,992	16,051,008	73.9
給料手当支出	※16	24,210,000	20,358,790	3,851,210	84.1
福利厚生費支出		4,200,000	3,384,417	815,583	80.6
通勤費支出		1,910,000	1,400,534	509,466	73.3
退職給付支出		300,000	0	300,000	0.0
学会総会費		867,000	513,502	353,498	59.2
社員総会費(会議費支出)	※17	4,795,000	320,028	4,474,972	6.7
理事会費		3,228,000	167,839	3,060,161	5.2
委託費支出	※18	8,476,000	6,816,106	1,659,894	80.4
人件費支出		0	18,750	△ 18,750	0.0
渉外費支出		20,000	8,640	11,360	43.2
旅費交通費支出		30,000	2,650	27,350	8.8
通信運搬費支出		1,886,000	1,913,951	△ 27,951	101.5
消耗品費支出	(※4)	1,250,000	2,090,398	△ 840,398	167.2
印刷製本費支出		9,000	81,510	△ 72,510	905.7
慶弔費支出		50,000	0	50,000	0.0
光熱水料費支出		738,000	583,202	154,798	79.0
賃借料支出	※19	4,775,000	4,199,170	575,830	87.9
保険料支出		85,000	82,931	2,069	97.6
諸謝金支出		50,000	0	50,000	0.0
租税公課支出	※20	650,000	955,400	△ 305,400	147.0
負担金支出	※21	380,000	430,000	△ 50,000	113.2
修繕費支出		50,000	0	50,000	0.0
雑支出	※22	2,374,000	2,068,974	305,026	87.2
総務費支出		1,244,000	129,200	1,114,800	10.4
総務委員会費支出	※23	10,000	0	10,000	0.0
利益相反委員会費支出	※23	109,000	0	109,000	0.0
広報委員会費支出(法人会計分)	(※13)	20,000	0	20,000	0.0
会則等検討委員会費支出	※23	700,000	77,000	623,000	11.0
選挙費用支出	※24	405,000	52,200	352,800	12.9
③その他支出		2,000,000	2,276,000	△ 276,000	113.8
資格喪失者会費支出	※25	2,000,000	2,200,000	△ 200,000	110.0
法人税、住民税及び事業税	※26	0	76,000	△ 76,000	0.0
事業活動支出合計(I b)		143,236,000	120,836,347	22,399,653	84.4
事業活動収支差額(I a)-(I b)		2,065,000	34,823,759	△ 32,758,759	1,686.4

科 目	補足	2020年度 補正予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	2020年度 実績額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	差異	(単位：円)
Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）					
1. 投資活動収入（各積立金を取り崩し、それを資金として使用する）					
選挙積立取崩収入（選挙費用として使用）	※24	405,000	52,200	352,800	
退職給付引当資産取崩収入		300,000	0	300,000	
寄付積立資産取崩収入	※27	0	90,000	△ 90,000	
長期前払費用振替収入（事務所更新料）	※28	110,000	110,000	0	
投資活動収入合計（Ⅱa）		815,000	252,200	562,800	
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）					
選挙積立預金取得支出	※29	1,000,000	1,000,026	△ 26	
退職給付引当資産取得支出		870,000	1,414,100	△ 544,100	
若手研究者助成金取得支出	※30	0	30,000,000	△ 30,000,000	
事務所更新料（長期前払費用）		0	0	0	
投資活動支出合計（Ⅱb）		1,870,000	32,414,126	△ 30,544,126	
投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）		△ 1,055,000	△ 32,161,926	31,106,926	
Ⅲ 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入合計（Ⅲa）		0	0	0	
2. 財務活動支出					
リース債務返済支出		527,000	526,176	824	
財務活動支出合計（Ⅲb）		527,000	526,176	824	
財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）		△ 527,000	△ 526,176	△ 824	
Ⅳ 予備費支出		1,000,000	0	1,000,000	
当期収支差額		△ 517,000	2,135,657	△ 2,652,657	
前期繰越収支差額		113,853,000	152,325,609	△ 38,472,609	
次期繰越収支差額		113,336,000	154,461,266	△ 41,125,266	

- ※1 2020年度会員数は9930名であり、そのうち未納者は237名である。したがって2020年度会費の納入は 9693名分。2020年度会費の納入率は 97.6%（9693名/9930名）である。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版 各1口。会費1口50,000円。
- ※3 著作権者協会の「学協会実態値比による分配の指標（個人正会員数及び発行された定期刊行物の集計用頁数）」の計算手順を一部変更したことに伴い、本会の定期刊行物の集計用頁数の評価が大幅に向上したことから著作権使用料の分配額が昨年度比で20倍超の増額となった。
- ※4 公益財団法人東京しごと財団より「事業継続緊急対策（テレワーク）のための助成金」。Web会議用モニター、事務職員のテレワーク用PCなどの消耗品購入に充当。
- ※5 JANSセミナー参加費 <6月Web開催 1,311,000円（会員のみ437名×3,000円）>、<3月Web開催（5月末まで継続開催）587,000円（会員253名×2,000円、非会員16名×5,000円、学生1名×1,000円）>
- ※6 JNSセミナー参加費 <Web開催 1,082,000円（会員334名×3,000円、非会員16名×5,000円）>
- ※7 第40回学術集会の参加費。参加者 4518人（会員3301名、非会員620名、留学生18名、学生無償579名）
- ※8 第40回学術集会へ2020年度中に寄付された金額のみ計上。2019年度中に入金されていた寄付金9万円は昨年の収入に計上しているためここには含めない。
- ※9 投稿論文数、掲載頁数が多かったため編集事務費が予算を上回った。予算170編/500頁に対して実績193編/671頁。
- ※10 投稿論文の増加により編集事務費が予算を上回った。予算500編に対して実績704編。
- ※11 COVID-19の影響によりWebでの委員会開催となったため旅費交通費など経費支出が減少した。
- ※12 COVID-19の影響によりWebでのセミナー開催となったため会場費、資料の印刷費などの支出が減少した。
- ※13 【広報委員会の活動のうち公益目的事業（市民フォーラム、学術集会）に関する経費を事業費に計上している】
COVID-19の影響によりWebでの委員会開催となったため旅費交通費など経費支出が減少した。
- ※14 第40回学術集会の2020年度にかかった経費。
- ※15 第41回学術集会の2020年度にかかった経費。
- ※16 事務職員の在宅勤務、育児休業等により減少した。
- ※17 すべてWeb開催となったため会場費、旅費交通費など経費支出が減少した。定例理事会6回（5月、6月、8月、11月、12月、2月）、社員総会2回（6月、12月）、学会総会1回（12月/学術集会開催時）。
- ※18 【法人として必要】
会計事務所（150万円）<会計顧問料（78万円）、内閣府提出書類作成料（11万円）、内閣府変更認定申請業務（28万円）、社会保険労務士（33万円）>、公認会計士監査報酬（36万円）、顧問弁護士（40万円）
【学会事業に直接必要】
会員管理システム利用料（315万円）<基本利用料（110万円）、会費コンビニ決済機能（26万円）、学術集会参加登録・行事管理機能（77万円）、アンケート機能（15万円）、API連携機能追加（19万円）、委任状管理利用料（34万円）、領収書発行機能追加（2万円）、クレジット決済機能追加（32万円）>、JANSホームページ管理料（58万円）、ホームページ英訳費用（12万円）、Web会議システム利用料（33万円）、封入・発送委託費（17万円）
【事務所運営費】
事務所警備委託費（21万円）
- ※19 ペーパーレス会議用タブレットのリース費用（51万円）を予算計上していたが、COVID-19により各自PCによるWeb会議を行うようになったため取りやめたことにより減額した。
- ※20 消費税課税売上高（学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など）に係る消費税（本則課税方式）および、収入印紙代。

- ※21 日本看護系学会協議会(JANA) 8万円、看護系学会等社会保険連合(看保連) 30万円、日本学術協力財団 5万円の年会費。
- ※22 会費入金手数料(157万円)、経費支払手数料(20万円)、ネットバンキング利用料(2万円)、貸金庫手数料(2万円)、決算に伴う証明書発行手数料(1万円)、給与ソフト年間サポート料(5万円)、事務所雑支出(20万円)＜飲料水(9万円)、ごみ処理(3万円)、お茶・置き葉・トイレ用品等(8万円)＞
- ※23 COVID-19の影響によりWebでの委員会開催となったため経費支出が減少した。
(※13) 【広報委員会の活動のうち、委員会開催費(会議費)を管理費に計上している。】
- ※24 新理事選挙の費用。選挙積立金から取り崩して支払っている。
- ※25 前年度(2019年度)会費の未納により会員資格を喪失(退会)している会員の未収会費。活動経費支出ではないが、会費未納により収入が減少するため費用に計上している。正味財産増減計算書にも表記されている。
- ※26 収益事業(学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入)に係る法人税・地方法人税 4,600円、法人住民税 70,200円。法人事業税 1,200円。
- ※27 2019年度中に入金されて積立てていた寄付金を第40回学術集会の活動資金へ移動。
- ※28 事務所契約更新料(賃借料)のうち発生主義の原則に基づき翌々年分を繰延べていた「長期前払費用」を「前払費用」へ移動。
- ※29 選挙費用に充当するための積立金。2022年度の代議員選挙・役員選挙に充当する金額を毎年積立てている。
- ※30 新規事業である「若手研究者助成事業」の資金として積み立てた。



監査報告書

公益社団法人日本看護科学学会
理事長 真田 弘美 様

2020年4月1日から2021年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1. 監査の方法及びその内容

私ども監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について監査いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表(貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書、財産目録)および収支計算書について監査いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(3) 2021年度遊休財産対策の必要性について

2020年度は、収入増に比して、COVID-19のためもあり事業費の激減により遊休財産が急激に増額した。しかし、3千万円を若手研究者助成資金としたため、遊休財産限度額には到達しなかった。2021年度は、COVID-19の影響も残っているので事業費の増加は難しいと考えると遊休財産上限額を超えることが予測される。この対策を早急に立てる必要があると監事は考えている。検討の方向性として、若手研究者助成資金(特定費用準備資金)の増額(規程の改正が必要)、2022年度学術集会やセミナー参加費の減額等による会員への還元、長期展望として本学会の会館等の移転・建設など学会の拠点となる場の確保のための長期貯蓄計画などが提案できよう。

2021年5月15日

公益社団法人日本看護科学学会

監事 南 裕子 ㊞

監事 村嶋 幸代 ㊞

独立監査人の監査報告書

令和3年5月12日

公益社団法人日本看護科学学会
理事長 真田 弘美 殿

牧真之介公認会計士事務所

公認会計士 牧 真 之 介 ⑩

< 財務諸表監査 >

私は、公益社団法人日本看護科学学会の令和2年4月1日から令和3年3月31日までの令和2年度の貸借対照表及び損益計算書(公益認定等ガイドライン - 5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。)並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表(以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。)について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人日本看護科学学会の令和3年3月31日現在の令和2年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本看護科学学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

第3号議案

2020年度事業計画変更（案）と補正予算（案）の承認

1. 学会誌の投稿増に関する変更

投稿数が増える傾向にある和文誌と英文誌について対応するため、予算をそれぞれ100万円増額する。

2. 看護ケア開発・標準化委員会

2021年度に2つのガイドラインを刊行する予定があり、予算を400万円増額し、2020年度中に刊行予定であったガイドラインが2021年度になったため280万円、計680万円を増額して対応する。

3. 受賞論文表彰費支出

第41回日本看護科学学会学術集会で演題の表彰を実施するため、予算を50万円増額して対応する。

4. 社員総会費（管理費）

6月の定例社員総会のWEB開催により、会場費および旅費交通費の使用がなくなるため予算を250万円減額する

5. 理事会費（管理費）

開催方法の主流がオンラインとなり、特に遠方からの出席理事が激減、もしくはすべてオンラインとなることが見込まれるため、予算を150万円減額する。

6. 委託費支出（管理費）

①2020年度にリニューアルしての公開を予定していた英語版ホームページの制作が2021年度に延びたため、制作分の220万円を2021年度に増額して対応する。

②英語版ホームページのリニューアル公開により、内容やコンテンツ等の充実と維持を図ることを目的に、原稿翻訳やシステム構築等に対応するため、200万円を増額する。

2021年度 収支補正予算書(案)
2021年 4月 1日 から2022年 3月 31日 まで

科 目	補足	2021年度 補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2021年度 予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		500	500	0
特定資産受取利息収入		500	500	0
②会費収入		101,750,000	101,750,000	0
正会員会費収入		101,500,000	101,500,000	0
賛助会員会費収入		250,000	250,000	0
③学会誌収入		1,494,000	1,494,000	0
学会誌販売収入		456,000	456,000	0
著作権料収入		738,000	738,000	0
その他学会誌収入		300,000	300,000	0
④寄附金・助成金収入(学術集会含まず)		0	0	0
⑤セミナー収入		3,065,000	3,065,000	0
JANSセミナー		1,935,000	1,935,000	0
JJNSセミナー		1,130,000	1,130,000	0
⑥雑収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
⑦学術集会収入		54,315,000	54,315,000	0
学術集会参加費収入		45,000,000	45,000,000	0
事前登録会員(11,000円)		17,600,000	17,600,000	0
事前登録非会員(14,000円税込)		11,200,000	11,200,000	0
事前登録学部生		0	0	0
当日登録会員(13,000円)		11,700,000	11,700,000	0
当日登録非会員(15,000円税込)		4,500,000	4,500,000	0
当日登録学部生		0	0	0
寄附金・助成金収入		430,000	430,000	0
寄附金		30,000	30,000	0
助成金		400,000	400,000	0
広告販売収入		8,885,000	8,885,000	0
企業展示出展料		5,962,000	5,962,000	0
広告掲載料		2,123,000	2,123,000	0
ランチョンセミナー		800,000	800,000	0
懇親会収入		0	0	0
事業活動収入合計(I a)		160,625,000	160,625,000	0
2. 事業活動支出				
①事業費支出		107,726,000	98,426,000	9,300,000
学会誌発行費支出		29,440,000	27,440,000	2,000,000
和文誌編集費支出	※1	9,640,000	8,640,000	1,000,000
英文誌編集費支出		19,800,000	18,800,000	1,000,000
編集活動費支出		1,255,000	1,255,000	0
和文誌編集委員会費支出		315,000	315,000	0
英文誌編集委員会費支出		940,000	940,000	0
看護学術振興費支出		13,495,000	6,695,000	6,800,000
表彰論文選考委員会費支出		271,000	271,000	0
研究・学術推進委員会費支出		465,000	465,000	0
看護ケア開発・標準化委員会	※2	9,770,000	2,970,000	6,800,000
若手研究者活動推進委員会費支出		487,000	487,000	0
国際活動推進委員会費支出		700,000	700,000	0
COVID-19看護研究等対策委員会費支出		400,000	400,000	0
看護学学術用語検討委員会費支出		767,000	767,000	0
看護倫理検討委員会費支出		535,000	535,000	0
災害看護支援委員会支出		100,000	100,000	0
研究学術活動支援費支出		7,832,000	7,332,000	500,000
受賞論文表彰費支出	※3	1,693,000	1,193,000	500,000
若手研究者助成金支出		3,000,000	3,000,000	0
若手研究者助成選考委員会		100,000	100,000	0
研究倫理審査委員会費		94,000	94,000	0
JANSセミナー開催費		1,815,000	1,815,000	0
JJNSセミナー開催費		1,130,000	1,130,000	0
社会的活動費支出		1,510,000	1,510,000	0
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		705,000	705,000	0
広報委員会費支出(公益目的事業分)		805,000	805,000	0

科 目	補足	2021年度 補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2021年度 予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	差異
学術集会費支出		54,194,000	54,194,000	0
当年度開催学術集会		51,378,000	51,378,000	0
会場費支出		23,794,000	23,794,000	0
会議費支出		1,079,000	1,079,000	0
旅費交通費支出		892,000	892,000	0
消耗品費支出		4,420,000	4,420,000	0
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,792,000	1,792,000	0
印刷製本費支出(プログラム印刷費含む)		4,173,000	4,173,000	0
委託費支出		11,857,000	11,857,000	0
人件費支出		240,000	240,000	0
謝金支出		1,040,000	1,040,000	0
雑支出		2,091,000	2,091,000	0
懇親会運営費支出		0	0	0
次年度開催学術集会(準備期間)		2,816,000	2,816,000	0
会場費支出		0	0	0
会議費支出		100,000	100,000	0
旅費交通費支出		400,000	400,000	0
消耗品費支出		360,000	360,000	0
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		856,000	856,000	0
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		600,000	600,000	0
委託費支出		300,000	300,000	0
人件費支出		200,000	200,000	0
謝金支出		0	0	0
雑支出		0	0	0
②管理費支出		59,986,000	59,786,000	200,000
給料手当支出		24,770,000	24,770,000	0
福利厚生費支出		4,350,000	4,350,000	0
通勤費支出		1,910,000	1,910,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費		500,000	500,000	0
社員総会費	※4	2,165,000	4,665,000	△ 2,500,000
理事会費	※5	1,478,000	2,978,000	△ 1,500,000
委託費支出	※6	10,925,000	6,725,000	4,200,000
人件費支出		50,000	50,000	0
渉外費支出		20,000	20,000	0
旅費交通費支出		330,000	330,000	0
通信運搬費支出		2,190,000	2,190,000	0
消耗品費支出		1,200,000	1,200,000	0
印刷製本費支出		62,000	62,000	0
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		737,000	737,000	0
賃借料支出		4,283,000	4,283,000	0
保険料支出		84,000	84,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出		650,000	650,000	0
負担金支出		430,000	430,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出		2,460,000	2,460,000	0
総務費支出		942,000	942,000	0
総務委員会費支出		20,000	20,000	0
利益相反委員会費支出		109,000	109,000	0
広報委員会費支出(法人会計分)		20,000	20,000	0
会則等検討委員会費支出		700,000	700,000	0
選挙費用支出		93,000	93,000	0
③その他支出		2,200,000	2,200,000	0
資格喪失者会費支出		2,200,000	2,200,000	0
事業活動支出合計(I b)		169,912,000	160,412,000	9,500,000
事業活動収支差額(I a)-(I b)		△ 9,287,000	213,000	△ 9,500,000

科 目	2021年度 補正予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	2021年度 予算額 (2021. 4. 1～ 2022. 3. 31)	差異
Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）			
1. 投資活動収入（各種立金を取り崩し、それを資金として使用する）			
選挙積立取崩（選挙費用として使用）	93,000	93,000	0
退職給付引当資産取崩	300,000	300,000	0
若手研究者助成資金取崩	3,000,000	3,000,000	0
長期前払費用振替収入（事務所更新料）	0	0	0
投資活動収入合計（Ⅱa）	3,393,000	3,393,000	0
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）			
選挙積立預金	1,000,000	1,000,000	0
退職給付引当金積立	950,000	950,000	0
什器備品購入支出	0	0	0
一脚償却資産購入支出	0	0	0
事務所更新料（長期前払費用）	110,000	110,000	0
投資活動支出合計（Ⅱb）	2,060,000	2,060,000	0
投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）	1,333,000	1,333,000	0
Ⅲ 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入合計（Ⅲa）	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出合計（Ⅲb）	527,000	527,000	0
財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）	△ 527,000	△ 527,000	0
Ⅳ 予備費支出	1,000,000	1,000,000	0
当期収支差額	△ 9,481,000	19,000	△ 9,500,000
前期繰越収支差額	113,355,000	113,336,000	19,000
次期繰越収支差額	103,874,000	113,355,000	△ 9,481,000

- ※1 投稿数が増える傾向にある和文誌と英文誌について対応するため、予算をそれぞれ100万円増額している。
- ※2 2021年度に2つのガイドラインを刊行する予定があるため予算を400万円増額し、2020年度中に刊行予定であったガイドラインが2021年度になったため280万円、計680万円を増額している。
- ※3 第41回日本看護科学学会学術集会で演題の表彰を実施するため、予算を50万円増額している。
- ※4 Web開催により会場費および、6月社員総会にかかる旅費交通費の使用がなくなるため250万円減額している。
- ※5 Web開催が主流となることで旅費交通費が減少することが見込まれるため150万円減額している。
- ※6 英語版のホームページに関する作成費用（220万円）と維持・修正等にかかる費用（200万円）を増額している。

第4号議案

名誉会員の承認について

名誉会員についての定款上の規定

第12条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。

2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。

3 第1項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。

第14条 会員は、社員総会で定める会費を納めなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、名誉会員は、会費の納入を要しない。

名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項 (2016年10月23日改正)

1) 「看護学の発展に多大の寄与をした」ことの解釈・・・次のいずれかに該当すること。

① JANSの理事長を務めた。

② JANSの役員を通算5期務めた。監事1期は理事2期として数える。

③ JANSの学術集会会長、国際学術集会会長を務めた。

④ 上記①～③に相当する働きをしたと理事会が認めた。

⑤ その他・・・看護学の発展に格段の貢献をした。

2) 下記の各項目に全て該当すること

a 満70歳以上

b 常勤の現職のないこと

c 理事・社員でないこと

d 本人の同意があること

2021年6月定例社員総会で名誉会員に推薦する会員

前頁の規定に基づき、以下の1名が候補に挙がり、2021年第1回理事会（5月21日）にて推薦を承認した。

	中村 恵子 氏
会 員 歴	1995年12月31日～現在（26年）
学術集会会長歴	第30回学術集会会長（2010年）
役 員 代 議 員 歴	代 議 員 2011年～2015年、2015年～2019年